

U-NEXT HOLDINGS

2024年8月期 第3四半期決算説明資料

株式会社U-NEXT HOLDINGS
(東証プライム市場 9418)

2024年7月8日

目次

1. 連結決算概要
2. 事業セグメント別業績
3. APPENDIX

1. 連結決算概要

エグゼクティブサマリー

修正予想に対して各段階利益で80%超の進捗、
4Qに販促強化等を実行も通期着地は予想を上回る見込み

店舗サービス、通信、業務用システムで
四半期期間（3ヶ月）における過去最高の売上／営業利益を達成

コンテンツ配信は着実にユーザーを積み上げ増収基調維持、
営業利益も安定的に推移

エネルギーはU-POWERの契約件数が大幅に伸長、
営業利益はYoYで130%を超える成長

連結決算サマリー（予想対比）

- 修正予想に対して各段階利益で80%超の進捗
- 4Qに販促強化等を実行も現時点で通期着地は予想を上回る見込み

(百万円)	FY2024 予想	FY2024 3Q実績	進捗
売上高	316,000	235,537	75%
営業利益	28,500	23,533	83%
営業利益率 (%)	9.0%	10.0%	-
経常利益	27,500	23,006	84%
親会社株主に帰属する当期純利益	14,700	13,014	89%
親会社株主に帰属する当期純利益 [のれん調整後]	17,850	15,373	86%
1株当たり連結当期純利益 (円)	244.50	216.48	-
1株当たり連結当期純利益 [のれん調整後] (円)	296.89	255.72	-
EBITDA	39,000	30,994	79%
EBITDAマージン	12.3%	13.2%	-
EBITDA-CAPEX (投融資、コンテンツ前払含む)	17,000	12,025	71%

連結決算サマリー（前年対比）

売上高は17%、各段階利益は50%前後の増収増益

(百万円)	FY2023 3Q実績	FY2024 3Q実績	増減額	増減率
売上高	202,097	235,537	+33,440	+17%
営業利益	15,567	23,533	+7,966	+51%
営業利益率（%）	7.7%	10.0%	-	-
経常利益	14,664	23,006	+8,342	+57%
親会社株主に帰属する当期純利益	8,369	13,014	+4,645	+56%
親会社株主に帰属する当期純利益 [のれん調整後]	10,722	15,373	+4,651	+43%
1株当たり連結当期純利益（円）	140.08	216.48	-	-
1株当たり連結当期純利益 [のれん調整後]（円）	179.47	255.72	-	-
EBITDA	22,614	30,994	+8,380	+37%
EBITDAマージン	11.2%	13.2%	-	-
EBITDA-CAPEX（投融資、コンテンツ前払含む）	2,350	12,025	+9,675	+412%

事業セグメント別業績（予想対比）

- 全ての事業セグメントで売上、営業利益ともに修正予想を上回る進捗
- 調整額はグループブランディング費用を当初予定を上回る規模で積極投下

（百万円）		FY2024 予想	FY2024 3Q実績	進捗
コンテンツ配信	売上高	108,200	80,197	74%
	営業利益	8,400	6,538	78%
店舗サービス	売上高	68,700	52,047	76%
	営業利益	9,900	8,246	83%
通信	売上高	62,000	47,703	77%
	営業利益	7,000	5,491	78%
業務用システム	売上高	26,100	20,441	78%
	営業利益	5,700	4,896	86%
エネルギー	売上高	55,500	38,766	70%
	営業利益	6,100	5,048	83%
調整額	売上高	-4,500	-3,618	80%
	営業利益	-8,600	-6,687	78%

※調整額には本部コスト、のれん償却、セグメント間連結消去等を含む。

事業セグメント別業績（前年対比）

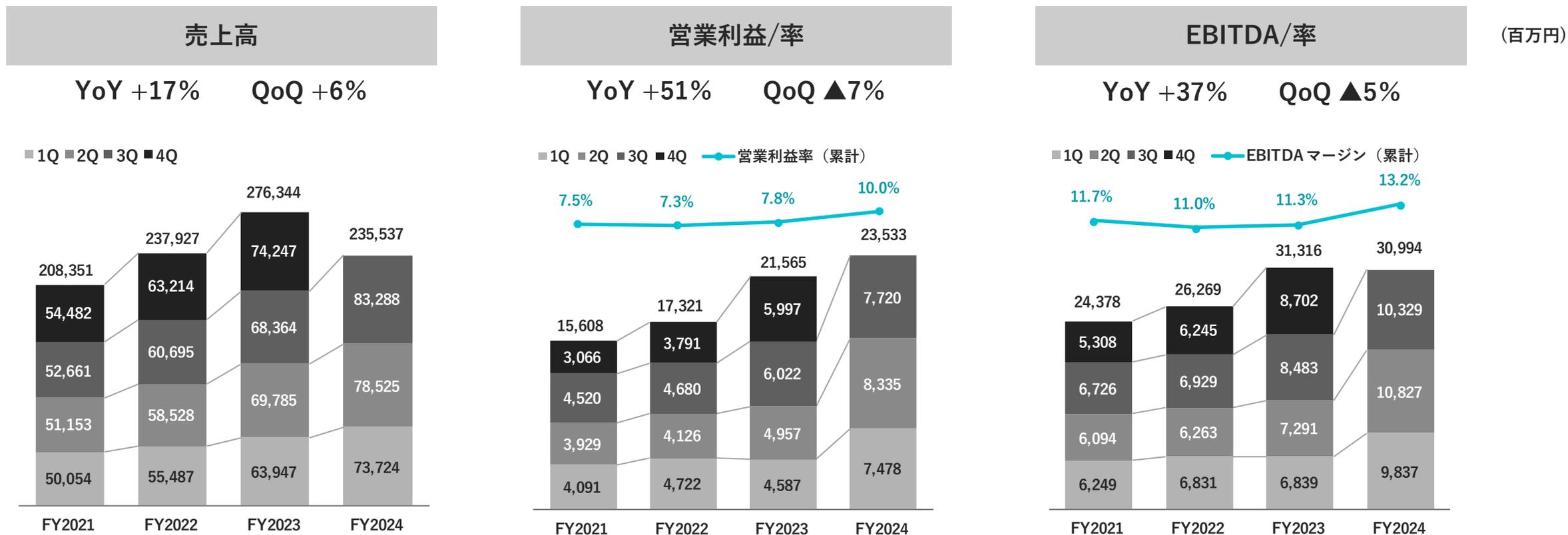
- エネルギーを除く全事業で増収増益（エネルギーはJEPX取引価格下落による減収であり収益性は向上）
- 調整額の営業利益（費用増加）は主にグループブランディングによるもの

(百万円)		FY2023 3Q実績	FY2024 3Q実績	増減	増減率
コンテンツ配信事業	売上高	60,625	80,197	+19,572	+32%
	営業利益	5,063	6,538	+1,475	+29%
店舗サービス事業	売上高	47,135	52,047	+4,912	+10%
	営業利益	7,435	8,246	+811	+11%
通信事業	売上高	41,644	47,703	+6,059	+15%
	営業利益	4,684	5,491	+807	+17%
業務用システム事業	売上高	13,811	20,441	+6,630	+48%
	営業利益	1,820	4,896	+3,076	+169%
エネルギー事業	売上高	41,667	38,766	▲2,901	▲7%
	営業利益	2,165	5,048	+2,883	+133%
調整額	売上高	-2,786	-3,618	▲832	▲30%
	営業利益	-5,601	-6,687	▲1,086	▲19%

※FY2024/08より連結子会社の(株)TACTをコンテンツ配信から通信事業へセグメント変更しておりますが、影響が軽微なため過去業績数値の遡及修正はしていません。

連結売上高・営業利益・EBITDA

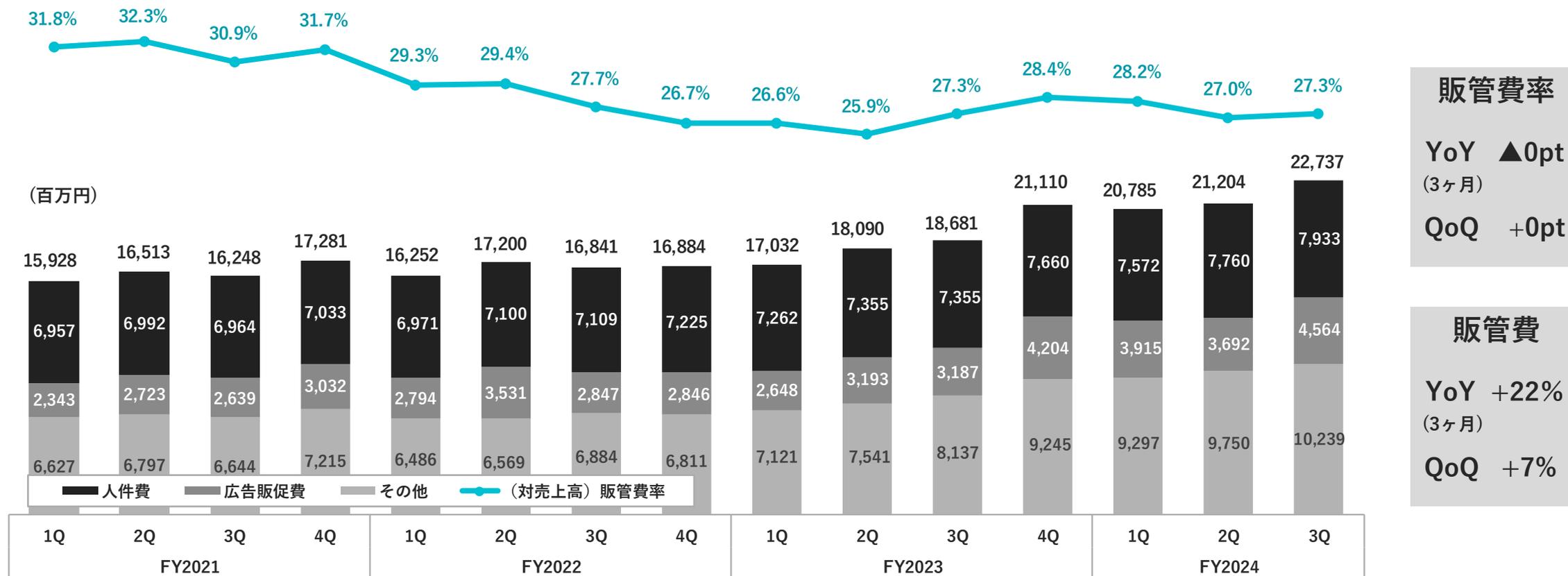
- 売上高、営業利益、EBITDAは第3四半期累計で過去最高を更新
- 業務用システムとエネルギーが牽引して収益性も前年度から大きく向上



※EBITDA：営業利益+減価償却費+のれん償却費

連結販管費

- 業容拡大に伴いYoYで増加も、対売上比率は30%を下回る水準を維持
- QoQでは主に新入社員に係る人件費や商号変更に伴うグループブランディング費用が増加



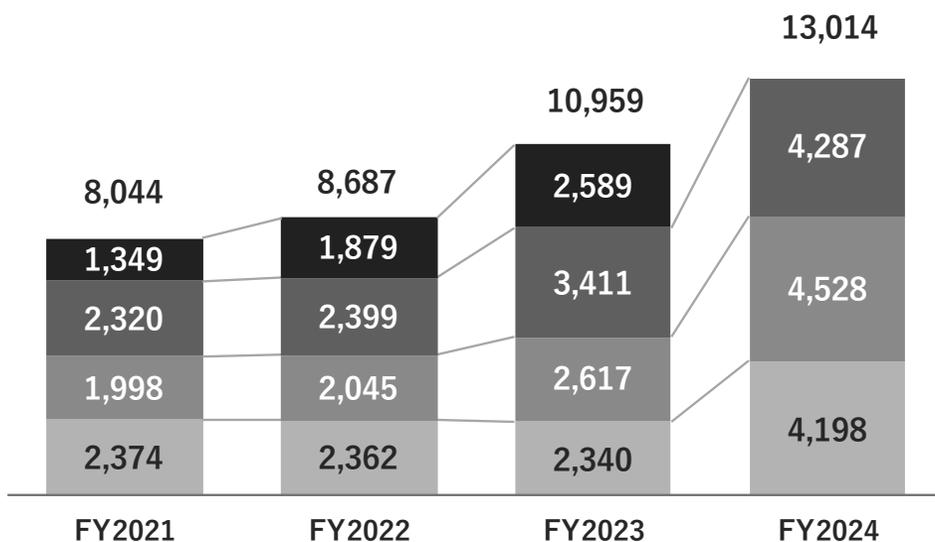
連結当期利益

YoYで大幅な増益となり、第3四半期累計で過去最高を更新

親会社株主に帰属する当期純利益

YoY +56% QoQ ▲5%

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q

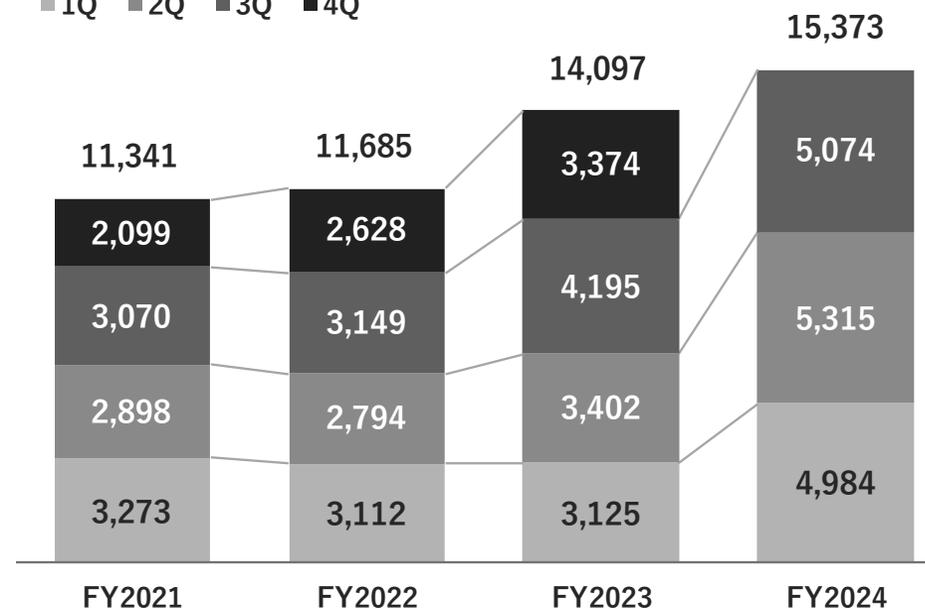


親会社株主に帰属する当期純利益【のれん調整後】

(百万円)

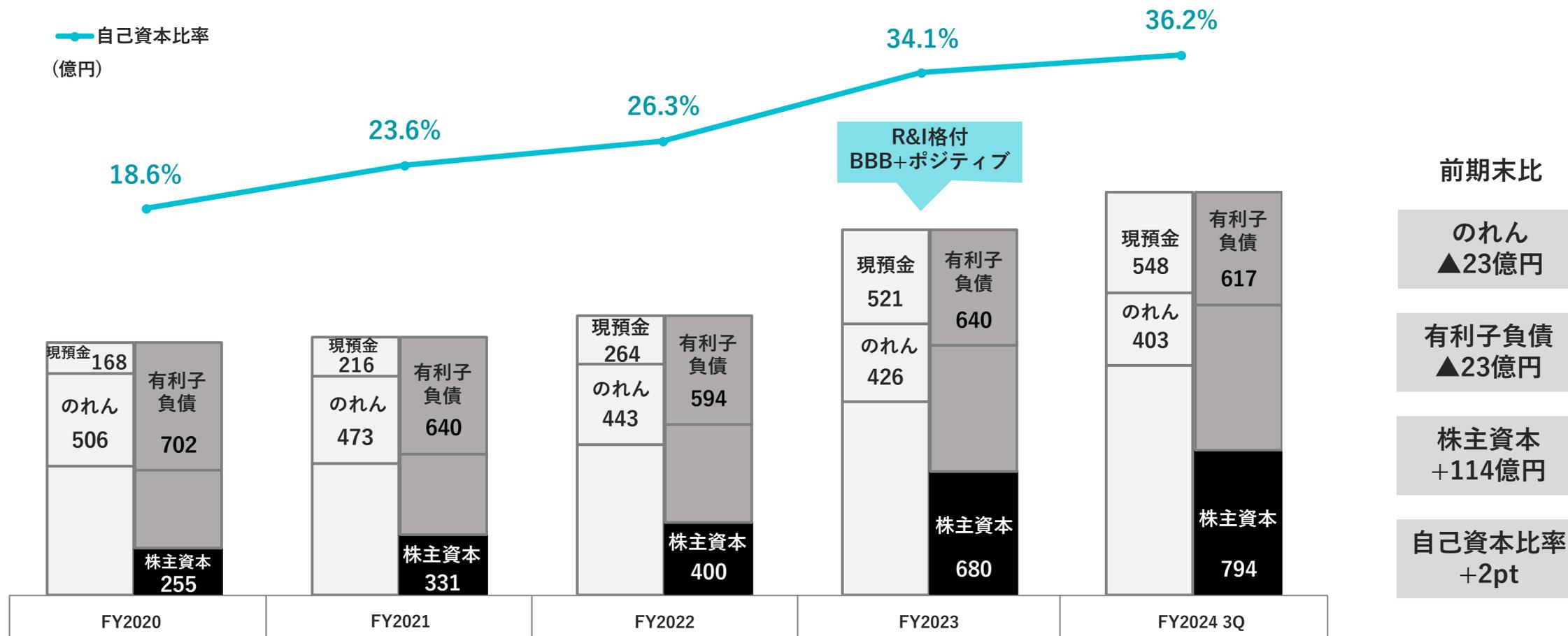
YoY +43% QoQ ▲5%

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q



連結貸借対照表

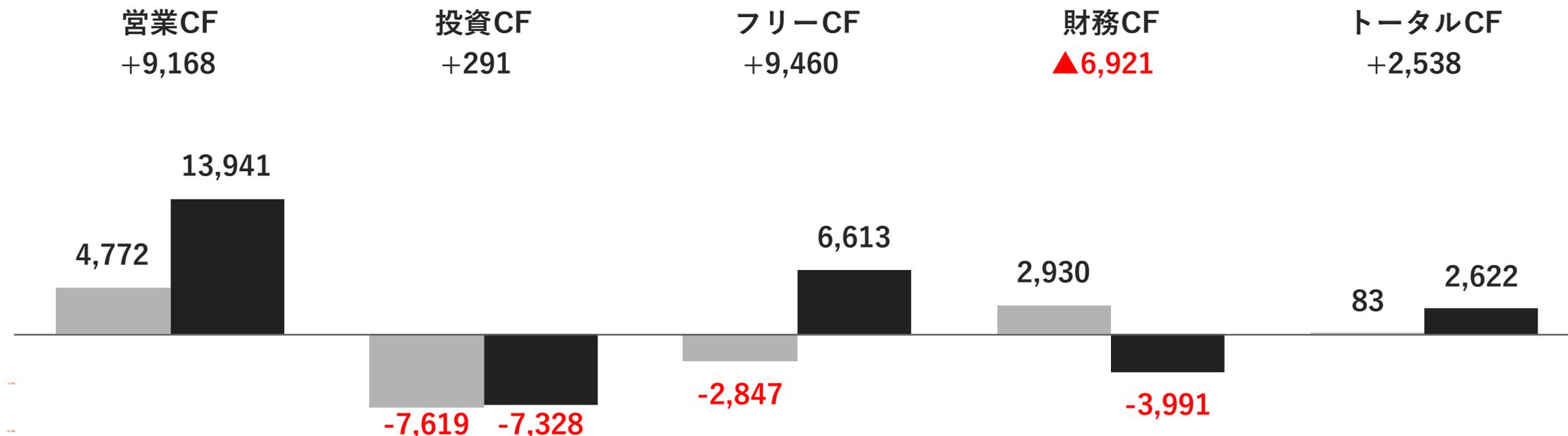
- 株主資本の積み上げにより自己資本比率は36%と前期末対比で2%増加
- 当社は30%～40%を適正水準と認識



連結キャッシュフロー（サマリー）

- 営業C/F : 税前利益+84億、前払費用増減▲61億、運転資本増減+22億、法人税負担減+24億などで収入増加
- 投資C/F : 事業投資支出が11億増加した一方、前期発生したWannaEat (株)の株式取得費用がなくなり横ばい
- フリーC/F : 前期▲28億の支出超過から+66億の収入超過へ大幅に改善
- 財務C/F : 前期の収入超過は主に社債調達100億によるもの

■ FY2023 3Q累計 ■ FY2024 3Q累計 (百万円)



※今期より第1、第3四半期の決算短信／四半期報告書における連結C/F計算書の任意開示を省略したため、今期3Qの数字は会計監査人のレビューを受けていない参考値となります。

連結キャッシュフロー（前年対比）

(百万円)	FY2023 3Q	FY2024 3Q	増減
営業CF			
税前当期純利益	14,204	22,626	+8,422
減価償却費	4,692	5,101	+408
のれん償却費	2,353	2,359	+5
支払利息	500	375	▲124
固定資産除却損	558	467	▲91
売上債権の増減	-173	-3,398	▲3,224
棚卸資産の増減	-2,434	-1,707	+726
仕入債務の増減	-872	3,849	+4,721
未払金の増減	1,255	804	▲451
契約負債の増減	1,062	1,727	+665
前払費用の増減	-6,960	-13,100	▲6,140
その他	-1,683	49	+1,733
小計	12,502	19,153	+6,651
法人税等の支払額	-7,239	-4,847	+2,391
その他	-490	-364	+125
営業CF合計	4,772	13,941	+9,168

(百万円)	FY2023 3Q	FY2024 3Q	増減
投資CF			
有形固定資産の取得による支出	-3,637	-4,201	▲563
有形固定資産の除却による支出	-535	-501	+33
無形固定資産の取得による支出	-2,215	-2,711	▲496
子会社株式の取得による支出	-1,243	-71	+1,172
その他	12	156	+144
投資CF合計	-7,619	-7,328	+291
財務CF			
長期借入れによる収入	55,220	-	▲55,220
長期借入金の返済による支出	-59,920	-2,280	+57,639
社債発行による収入	10,000	-	▲10,000
自己株式の取得による支出	-6,367	-0	+6,367
非支配株主からの払込み収入	2,508	-	▲2,508
配当金の支払額	-1,476	-1,653	▲176
その他	2,965	-57	▲3,023
財務CF合計	2,930	-3,991	▲6,921
トータルCF合計	83	2,622	+2,538

※今期より第1、第3四半期の決算短信／四半期報告書における連結C/F計算書の任意開示を省略したため、今期3Qの数字は会計監査人のレビューを受けていない参考値となります。

2. 事業セグメント別業績

事業セグメント概要

BtoB

店舗・施設DX ～生産性を高め人手不足に対応～

店舗サービス事業

(飲食店・小売店・理美容)

音楽配信、POSレジ、
キャッシュレス決済、配膳ロボット等



店舗BGM
国内シェア※1
No.1

業務用システム事業

(ホテル・病院)

自動精算機、再来受付機、
ホテルオペレーション管理システム等



自動精算機
国内シェア※2
No.1

インフラサービス ～通信環境と電力を提供～

通信事業

通信回線、ICT・クラウドサービス

エネルギー事業

高圧電力、低圧電力、グリーン電力

BtoC

ライフスタイルDX

コンテンツ配信事業

動画配信サービス「U-NEXT」



動画配信
国内シェア※3
No.2

※1 自社調べ

※2 自社調べ

※3 GEM Partners 動画配信 (VOD) 市場5年間予測レポート

事業セグメント別 決算サマリー

コンテンツ配信

(YoY) Paravi統合効果と大幅なユーザー増により増収増益
(QoQ)コンテンツ原価率の増加で利益横ばい ※3Q累計の原価率はベンチマーク水準

店舗サービス

(YoY) DX商材や家賃保証などのリカーリングサービスが継続的に安定成長し増収増益
(QoQ)フロー収益が好調に推移、四半期期間で過去最高の売上／営業利益を達成

通信

(YoY) 全てのサービス区分で営業増益を達成
(QoQ)季節性もあり回線取次が伸長、四半期期間で過去最高の売上／営業利益を達成

業務用システム

(YoY) 新紙幣発行に伴う自動精算機の入替特需により大幅な増収増益
(QoQ) 医療機関やゴルフ場向けが堅調、四半期期間で過去最高の売上／営業利益を達成

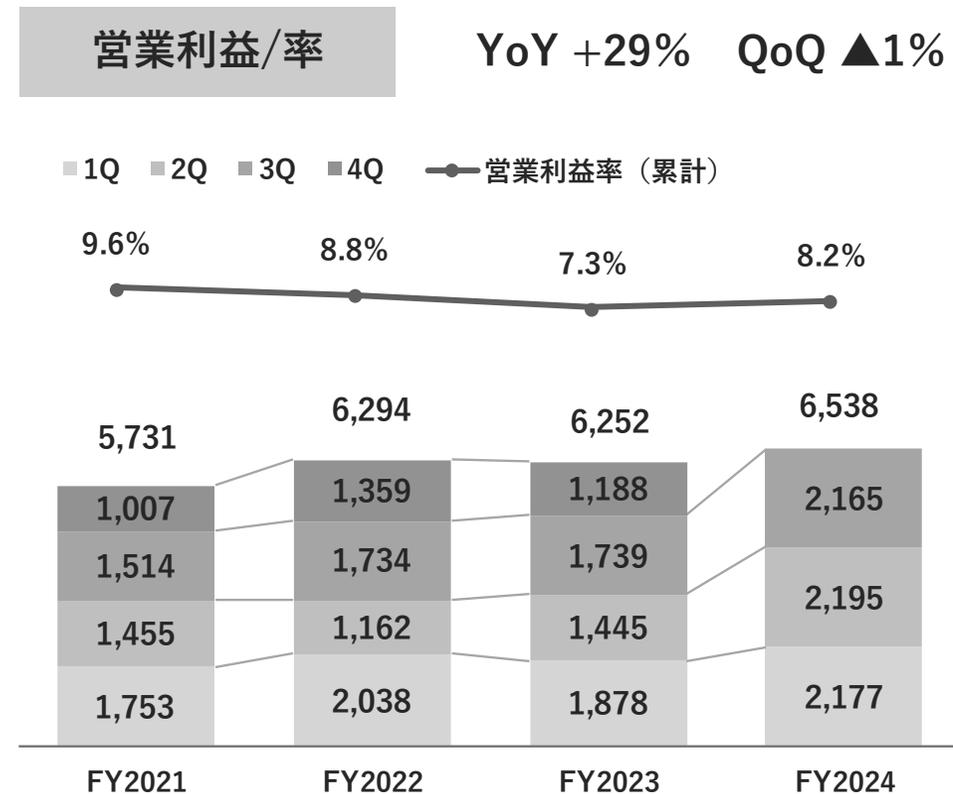
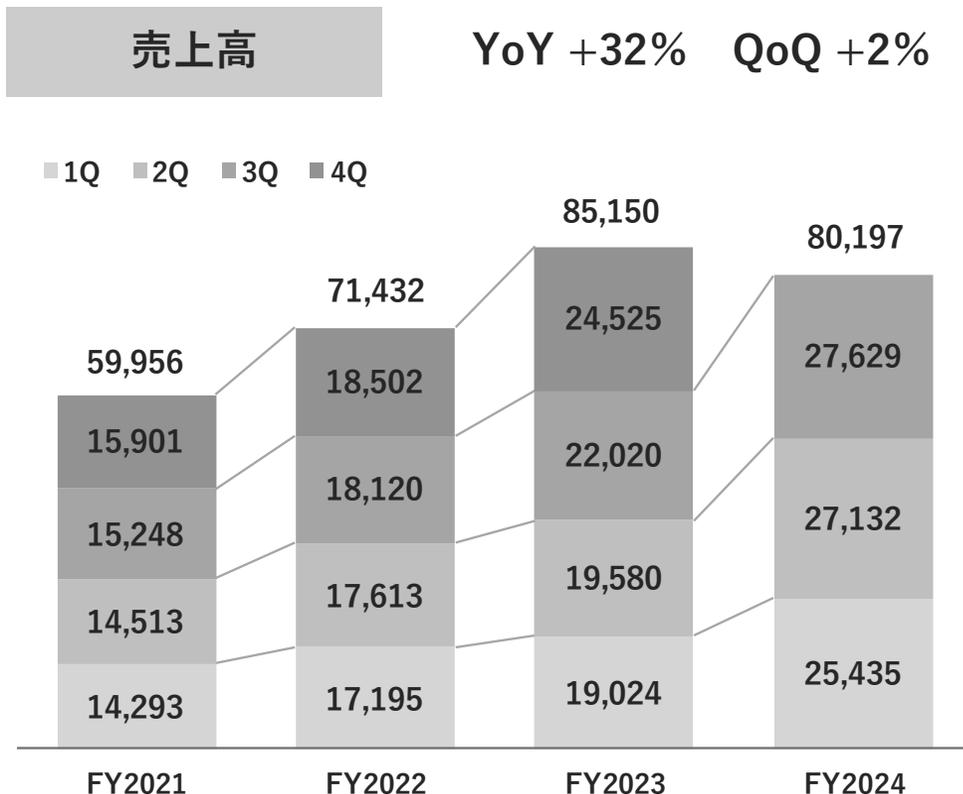
エネルギー

(YoY) JEPX価格下落で減収もU-POWER顧客増とUSENでんき収益性向上で大幅増益
(QoQ)高単価大口を含む顧客増により増収も、容量拠出金の一部負担などで減益

コンテンツ配信事業（業績推移）

- YoYはParavi統合効果と大幅なユーザー増により増収増益
- QoQはコンテンツ原価率の増加で営業利益横ばいも、3Q累計の原価率はベンチマーク水準

(百万円)

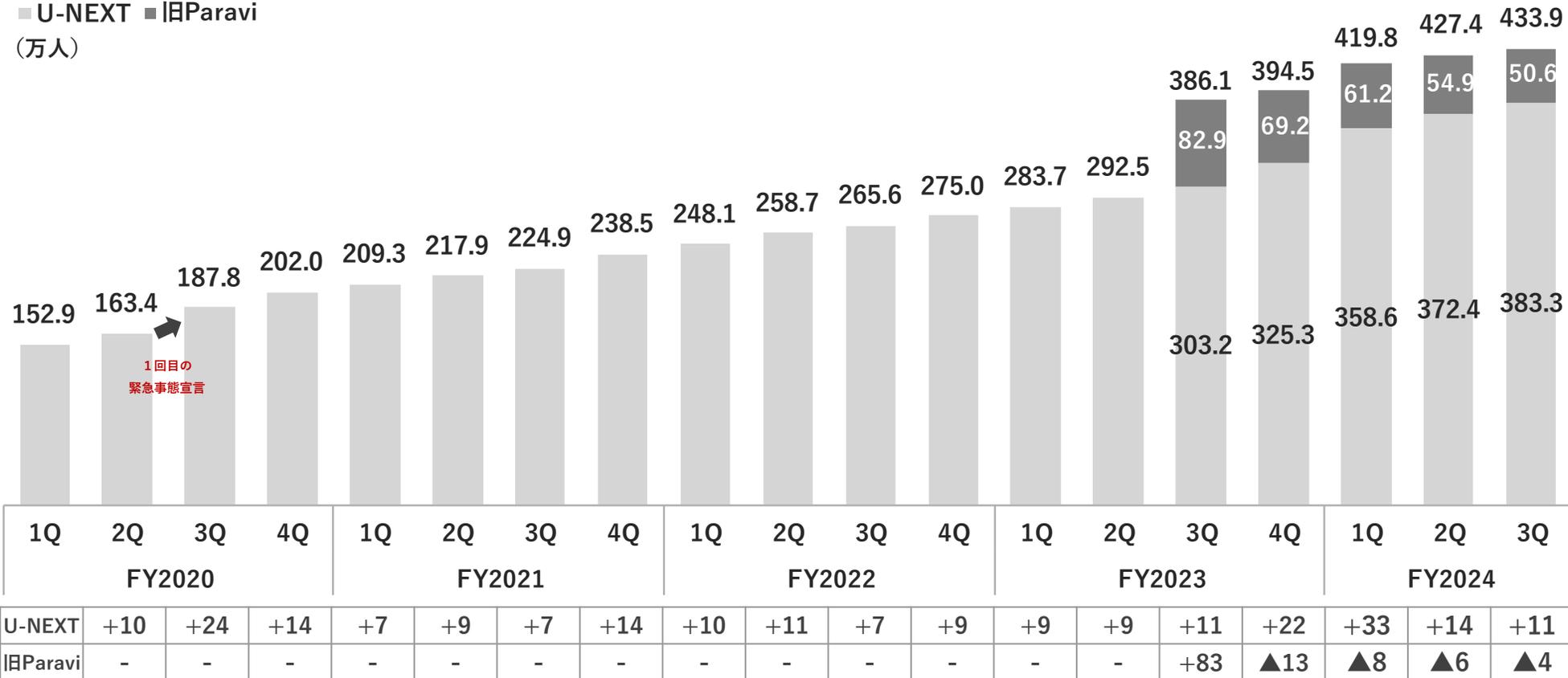


※FY2024/08より連結子会社の(株)TACTをコンテンツ配信から通信事業へセグメント変更しておりますが、影響が軽微なため過去業績数値の遡及修正はしていません。

コンテンツ配信事業（課金ユーザー）

U-NEXTは着実にユーザーを積み上げ、旧Paraviプランの自然減は逡減傾向

■ U-NEXT ■ 旧Paravi
(万人)



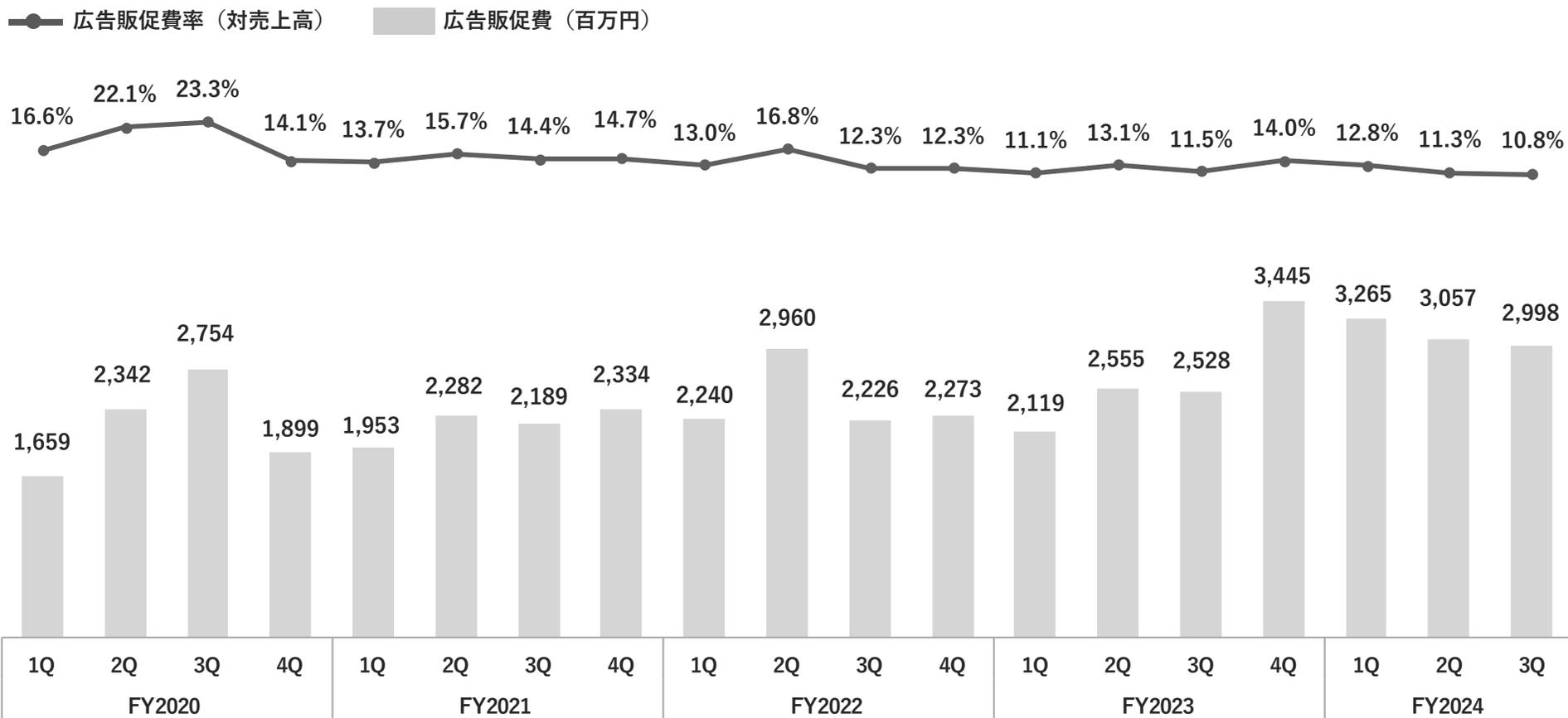
YoY
+48万人
(+12%)

QoQ
+7万人
(+2%)

※ビジネスアライアンス先を通じた月額ポイントサービス等を含む

コンテンツ配信事業（広告販促費）

ユーザー獲得数に応じてYoYで増加、QoQで微減



広告販促費

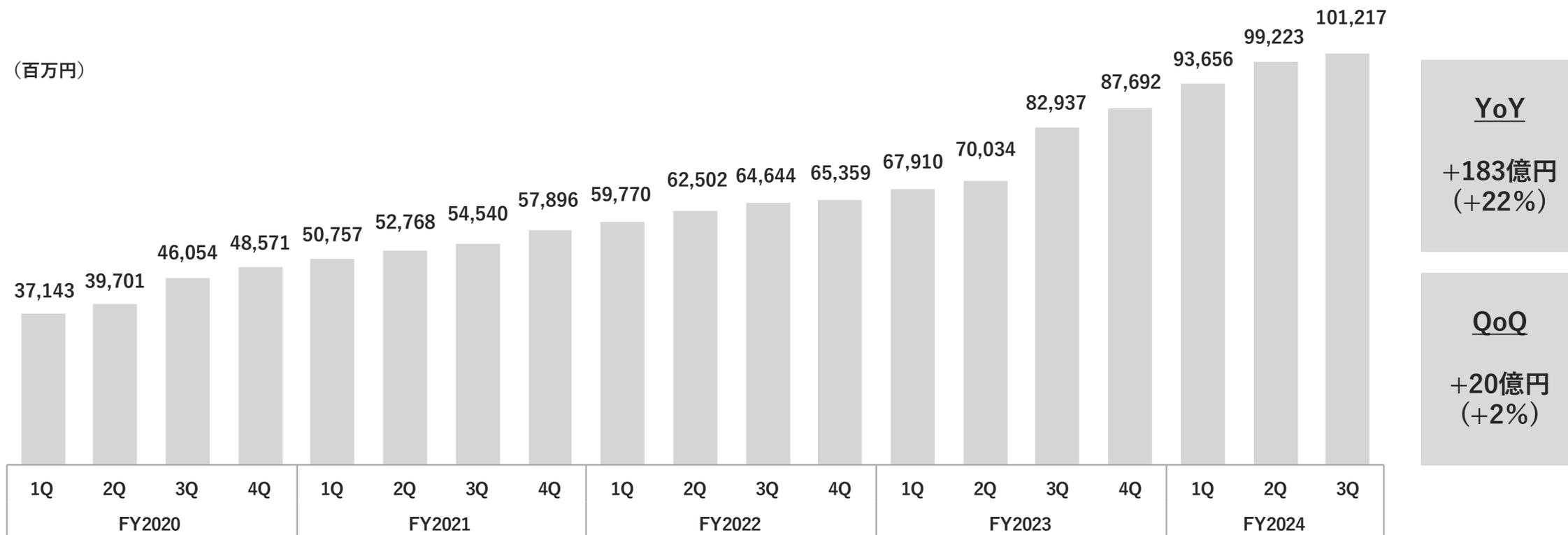
YoY +19%
(3ヶ月)
QoQ ▲2%

広告販促費率

YoY ▲1pt
(3ヶ月)
QoQ ▲0pt

コンテンツ配信事業 (ARR)

順調な課金ユーザーの増加によりARRは1,000億円を突破



※Annual Recurring Revenue : Monthly Recurring Revenue の12倍

※Monthly Recurring Revenue : U-NEXTサービス全体の継続課金売上高 (PPV等のフロー売上高を除き、音楽配信等付帯月額サービスを含む)

※各四半期最終月の単月売上高ベース

コンテンツ配信事業（トピックス）

U-NEXTオリジナル書籍がドラマ化！自社IPのメディアミックス化第1弾が誕生

ドラマ化が決定した『団地のふたり』



- 放送予定：2024年9月1日（日）スタート
NHK BSプレミアム4K／NHK BS 毎週日曜 夜10時～10時49分
- 出演：小泉今日子 小林聡美 ほか

関連リリース：
<https://www.unext.co.jp/ja/press-room/danchi-no-futari-dramatization-2024-05-22>

IP開発の取り組み



- 2020年にIP開発を開始、110作品以上を創出
- 漫画や小説などのオリジナル電子書籍を出版し
人気が出たコンテンツを映像化
- 動画コンテンツ制作に比べターゲット層が広く低コスト

コンテンツ配信事業（トピックス） ※後発事象

特定ジャンルにおける一部クレジットカードブランド決済の一時停止について

概要

- 諸般の事情から2024年6月21日より特定ジャンルにおける一部クレジットカードブランドでの決済を一時停止
- 該当クレカブランドでの決済ユーザーは特定ジャンルのコンテンツ視聴にあたり決済方法の変更が必要
- 当該特定ジャンルに関して現時点でサービス終了予定は無し

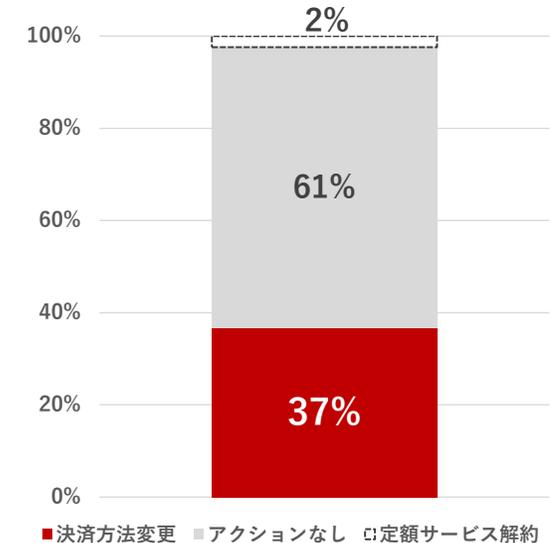
影響範囲

月額定額サービス加入ユーザーのうち一時停止した決済方法で特定ジャンルを視聴していたユーザーの割合は**数%**



初動状況

一時停止した決済方法で特定ジャンルを視聴していたユーザーの動向
(2024/6/21~2024/6/30)



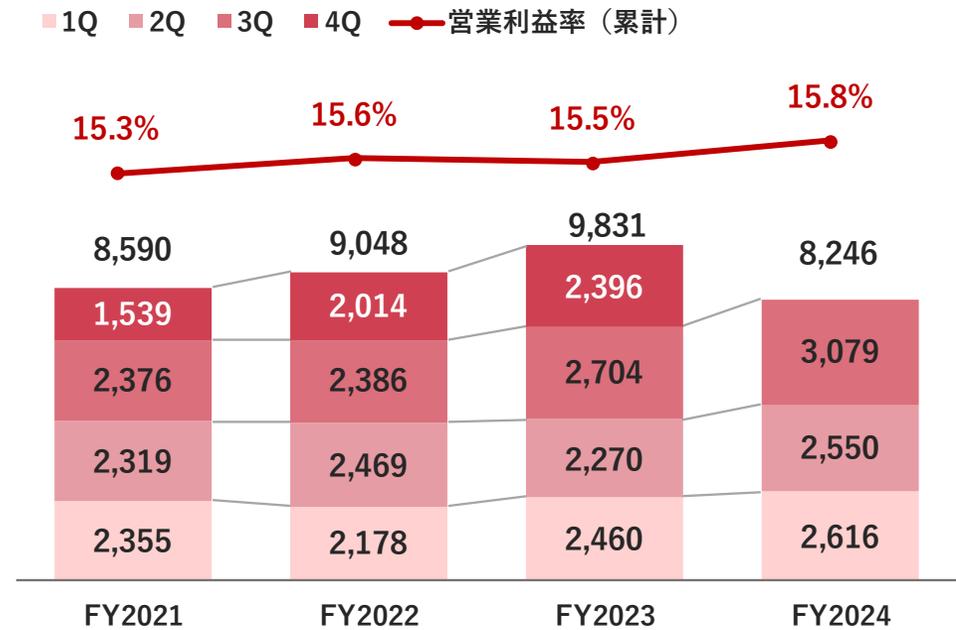
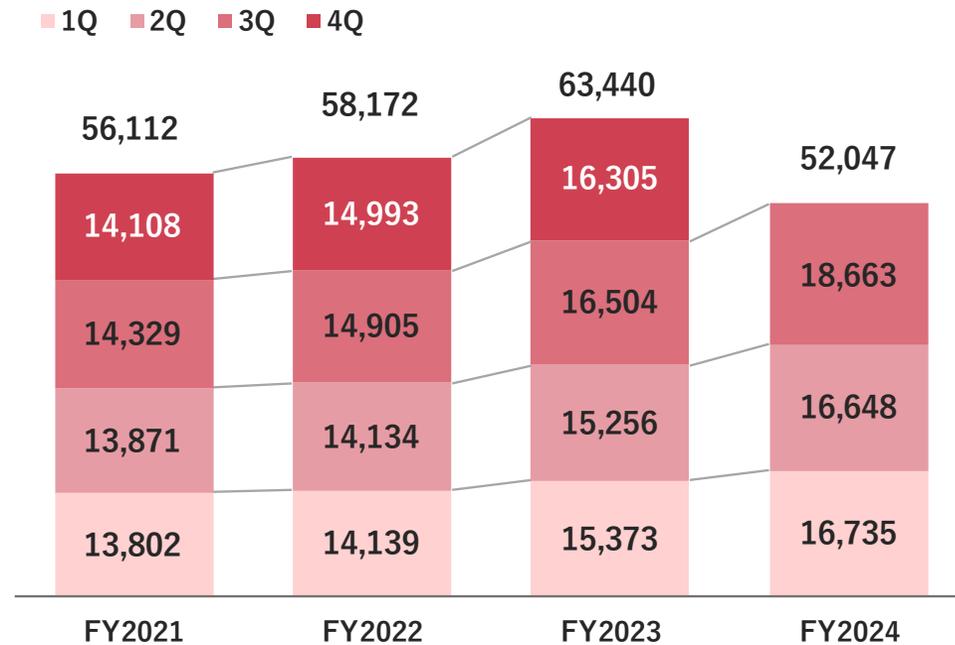
店舗サービス事業（業績推移）

- YoYはDX商材や家賃保証などのリカーリングサービスが継続的に安定成長し増収増益
- QoQは大型外販工事や配膳ロボット等のフロー収益が伸長、四半期期間で過去最高の売上／営業利益

(百万円)

売上高 YoY +10% QoQ +12%

営業利益/率 YoY +11% QoQ +21%

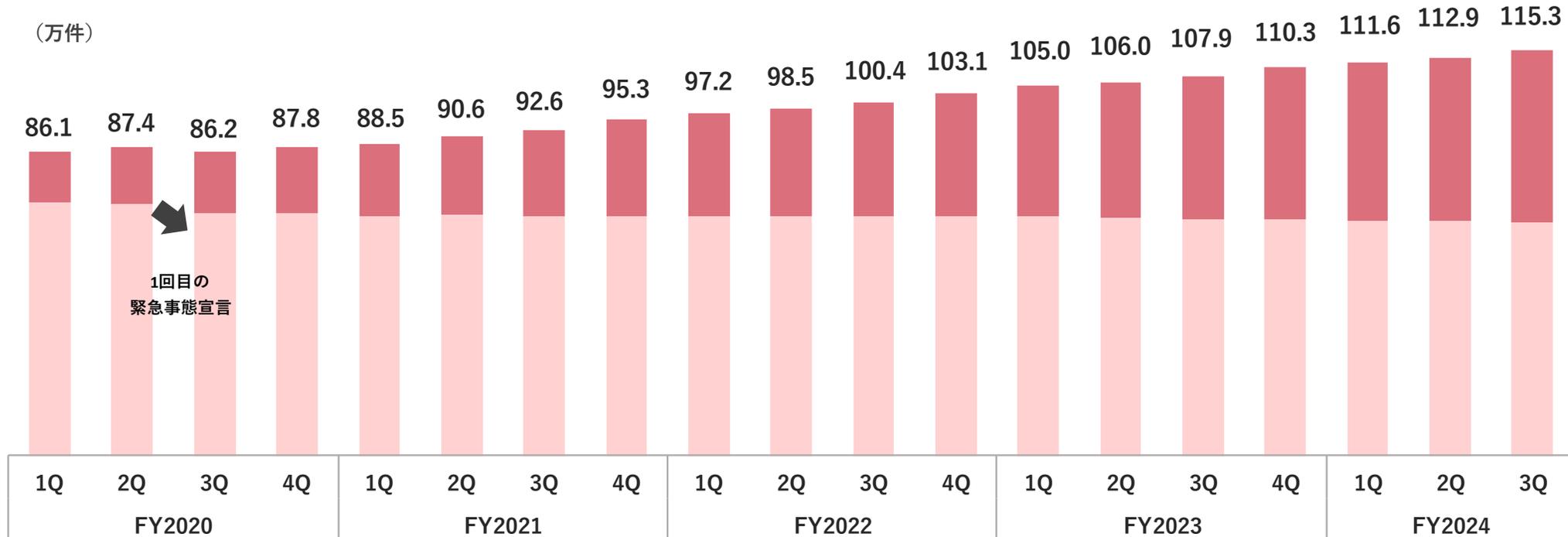


店舗サービス事業（契約件数）

契約件数はYoYで+7.4万件、QoQで+2.3万件と着実に顧客基盤を拡大

■ その他店舗向けサービス ■ 店舗向け音楽配信

(万件)



YoY
+7.4万件
(+7%)

QoQ
+2.3万件
(+2%)

※その他店舗向けサービス：通信回線、POSレジサービス、Wi-Fiサービス、IPカメラサービス、アプリ生成サービス、グルメサイトサービス、配膳ロボット、デジタルサイネージ、キャッシュレスサービス、フードデリバリーフランチャイズサービスの合算

※1顧客が複数サービスを契約している場合、サービス毎に1件とカウント

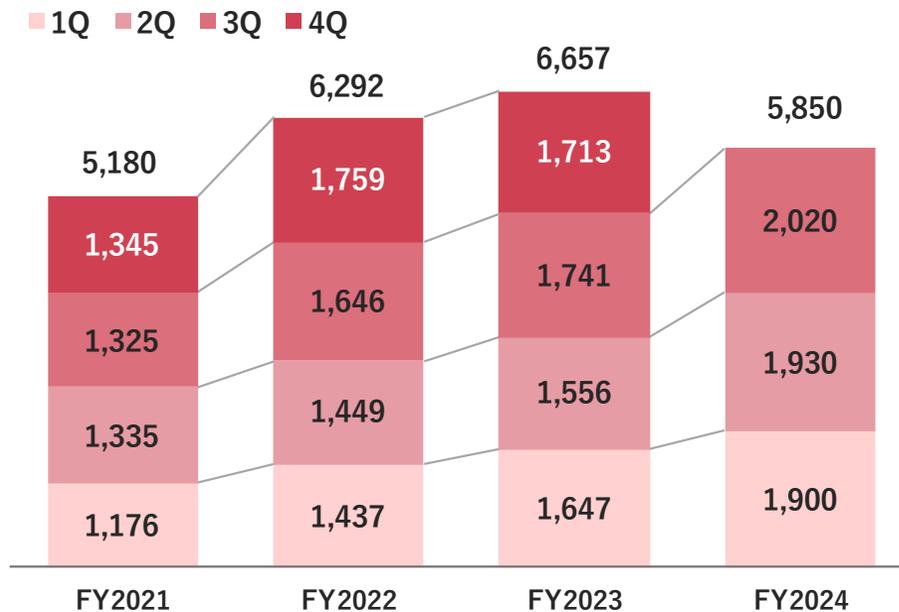
店舗サービス事業（POSレジ収益）

- YoYは1Q実施した月額利用料の価格改定により大幅な増収増益
- QoQは機器販売の回復と課金件数積み上げで増収増益

(百万円)

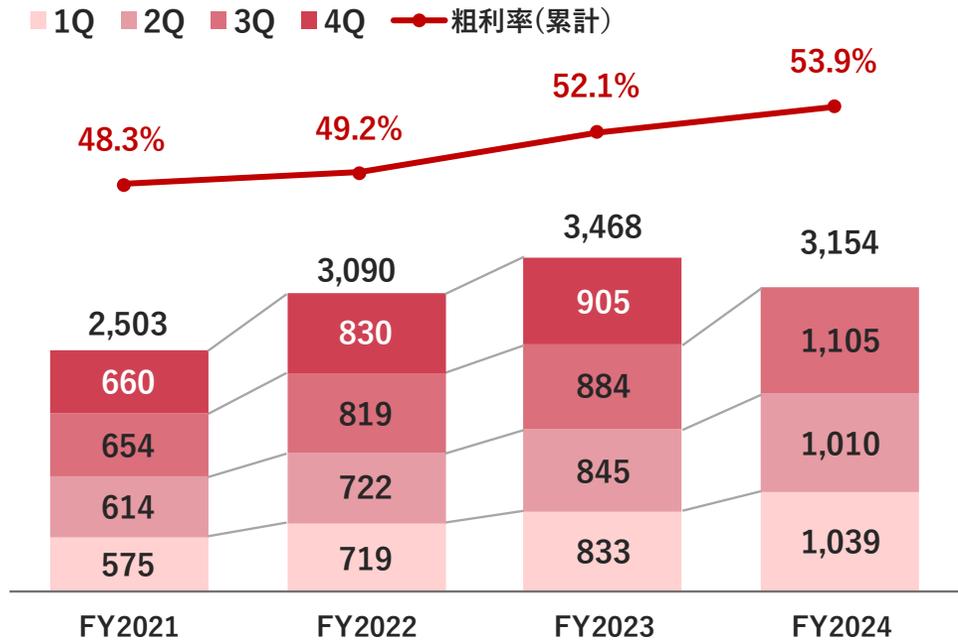
売上高

YoY +18% QoQ +5%



売上総利益/率

YoY +23% QoQ +9%



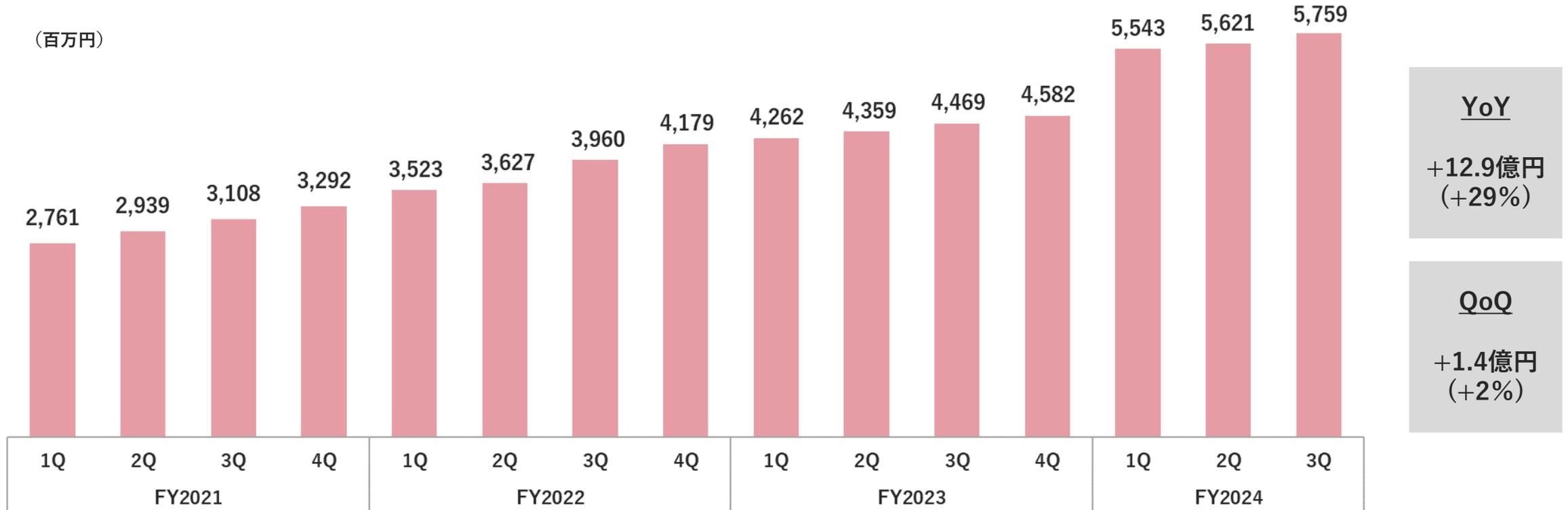
店舗サービス事業（POSレジ課金件数）

11月に実施した価格改定に伴う解約増加影響が残るも純増数は回復傾向



店舗サービス事業（POSレジARR）

顧客純増に連動してARRも微増



※Annual Recurring Revenue：Monthly Recurring Revenue の12倍

※Monthly Recurring Revenue：POSレジサービス売上高における継続課金売上高（機器販売や加入金等のフロー売上高を除く）

※各四半期最終月の単月売上高ベース

店舗サービス事業（トピックス）

成長市場への専門特化及びフィールドエンジニアリングの分社化を通じた更なる成長を企図して2024年9月1日付で組織再編を実施予定

(株)USEN Camera Solutions

- －カメラソリューションに特化
- －当社が顧客基盤を持つ飲食/小売に加え病院/工場/マンション等にも拡販を狙う



(株)USEN PAY

- －キャッシュレス決済サービスに特化
- －80万超の顧客基盤や販売チャネルなど当社グループ資産も最大限活用し成長市場でのシェア拡大を狙う



(株)USEN FIELDING

- －当社グループの強みの1つであるフィールドエンジニア部門を分社化しグループ事業会社へ施工サービスを提供
- －独立採算を通じて付加価値を顕在化しグループ全体の収益性向上を狙う

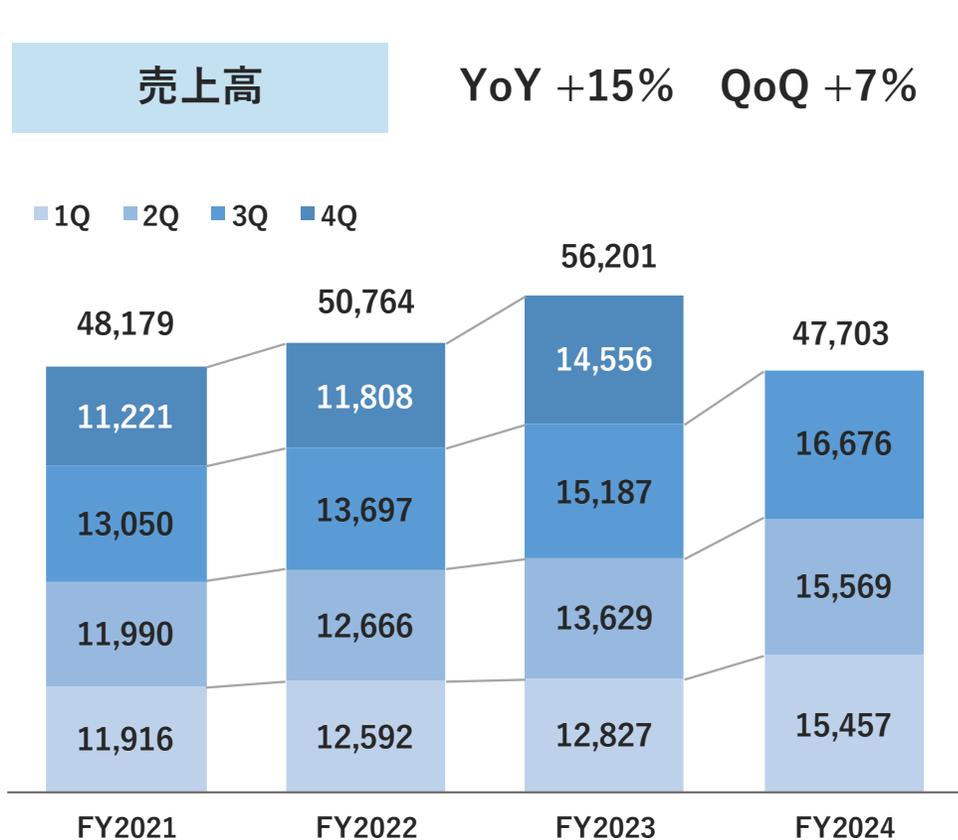


※全て完全子会社間且つ店舗サービス事業内での再編が中心になるためセグメント別業績に与える影響は軽微

関連リリース：「グループ組織再編に関するお知らせ」<https://ssl4.eir-parts.net/doc/9418/tdnet/2462160/00.pdf>

通信事業（業績推移）

- YoYの売上は個人向けを除き増収、営業利益は全てのサービス区分で増益達成
- QoQは法人向けICTで人件費増加等により微減益も回線取次が季節性もあり伸長、四半期期間で過去最高の売上／営業利益を達成

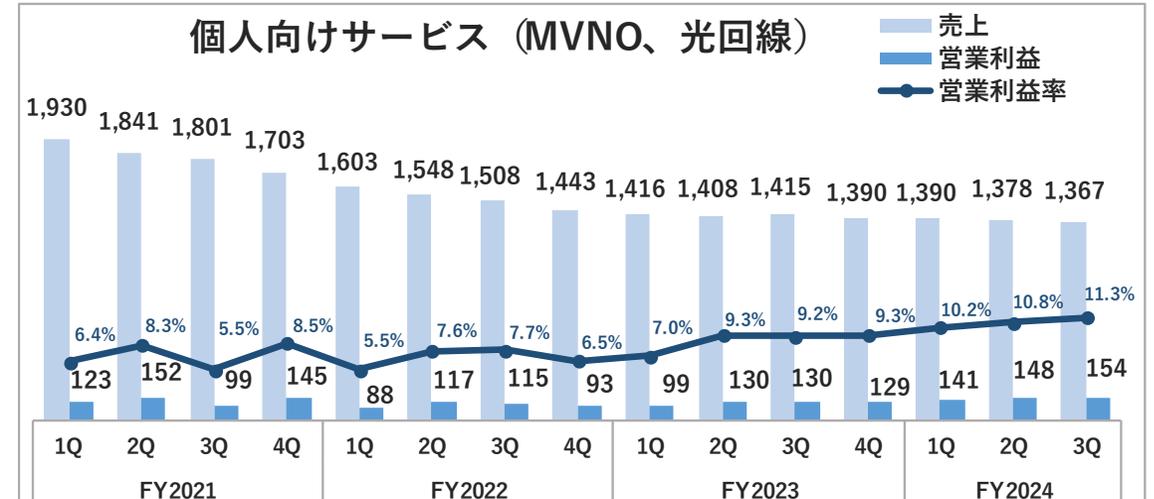
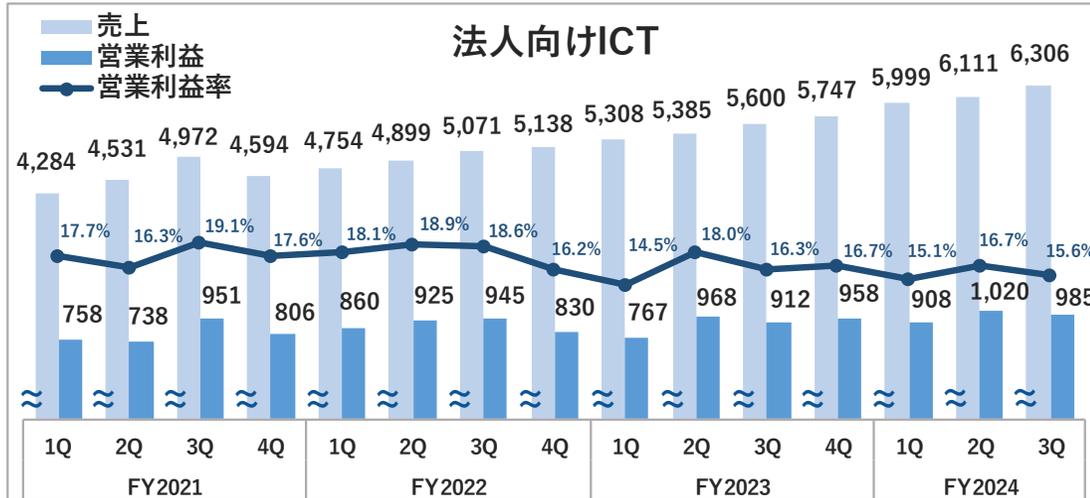


※FY2024/08より連結子会社の(株)TACTをコンテンツ配信から通信事業へセグメント変更しておりますが、影響が軽微なため過去業績数値の遡及修正はしていません。

通信事業（サービス区分別損益）

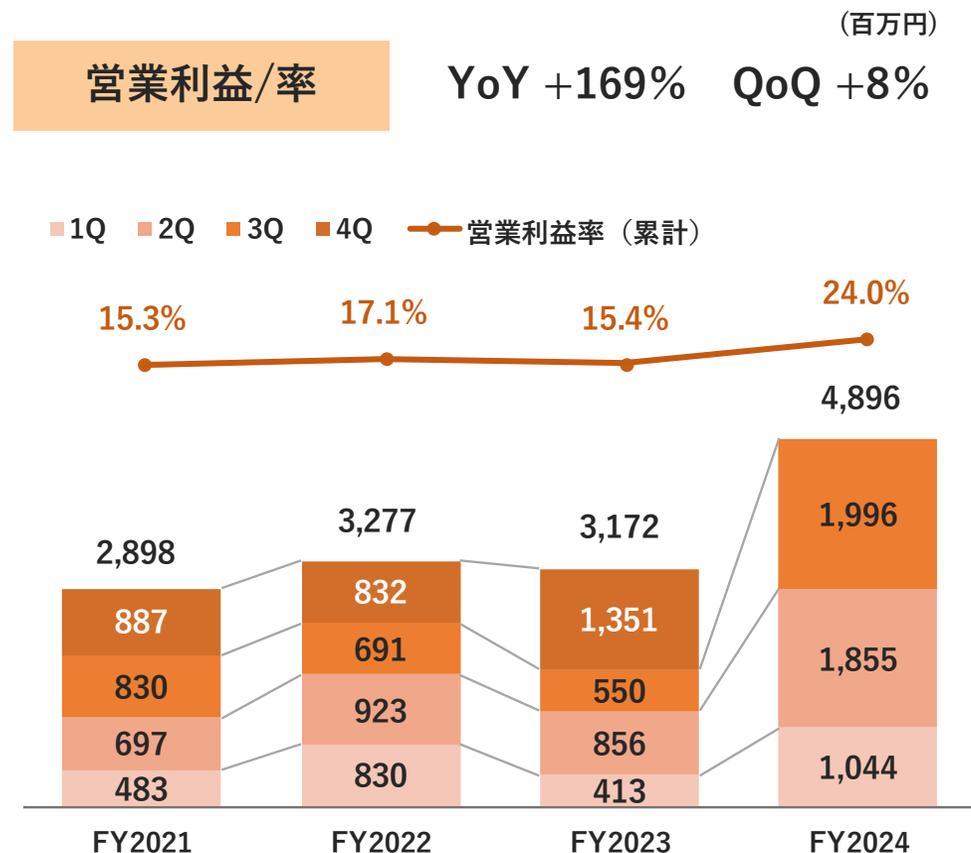
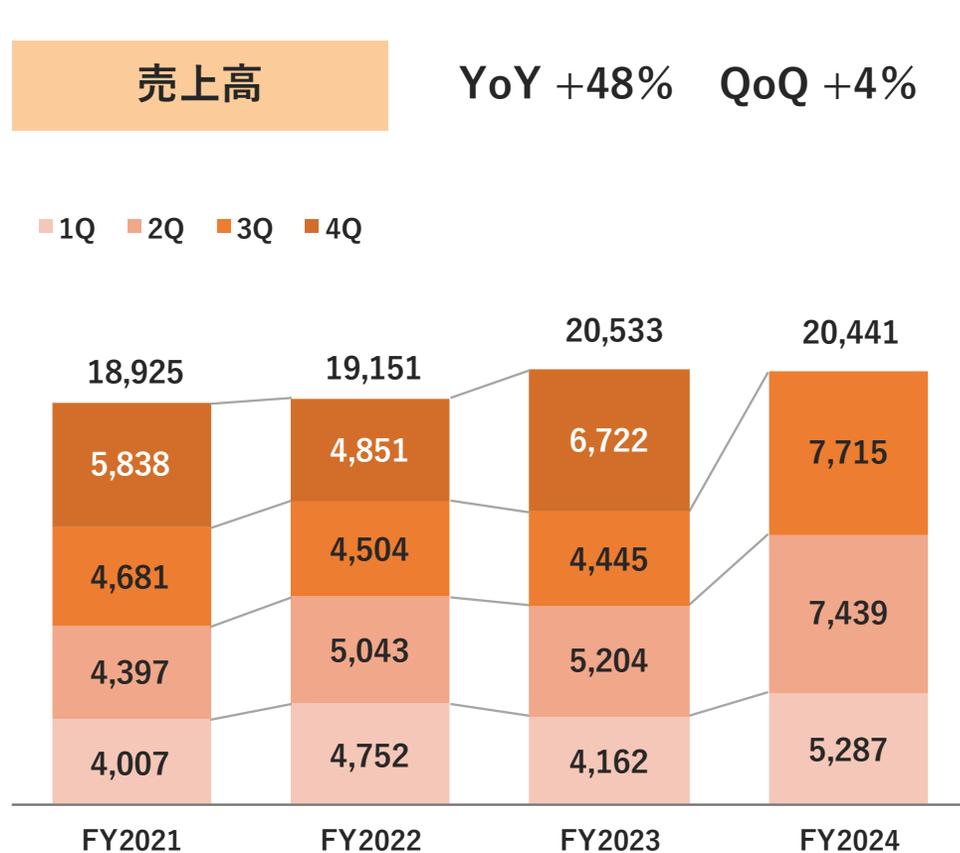
(百万円)

※FY2024/08よりTACTをコンテンツ配信から回線取次へセグメント変更



業務用システム事業（業績推移）

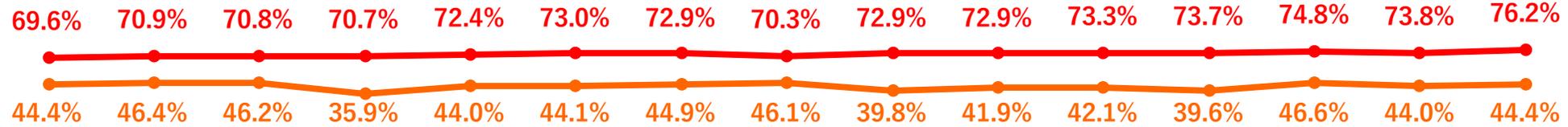
- YoYは新紙幣発行に伴う自動精算機の入替特需および粗利率の改善で大幅な増収増益
- QoQは上記に加えて医療機関やゴルフ場向けの機器販売が堅調、四半期期間で過去最高の売上／営業利益を達成



業務用システム事業（フロー/リカーリング）

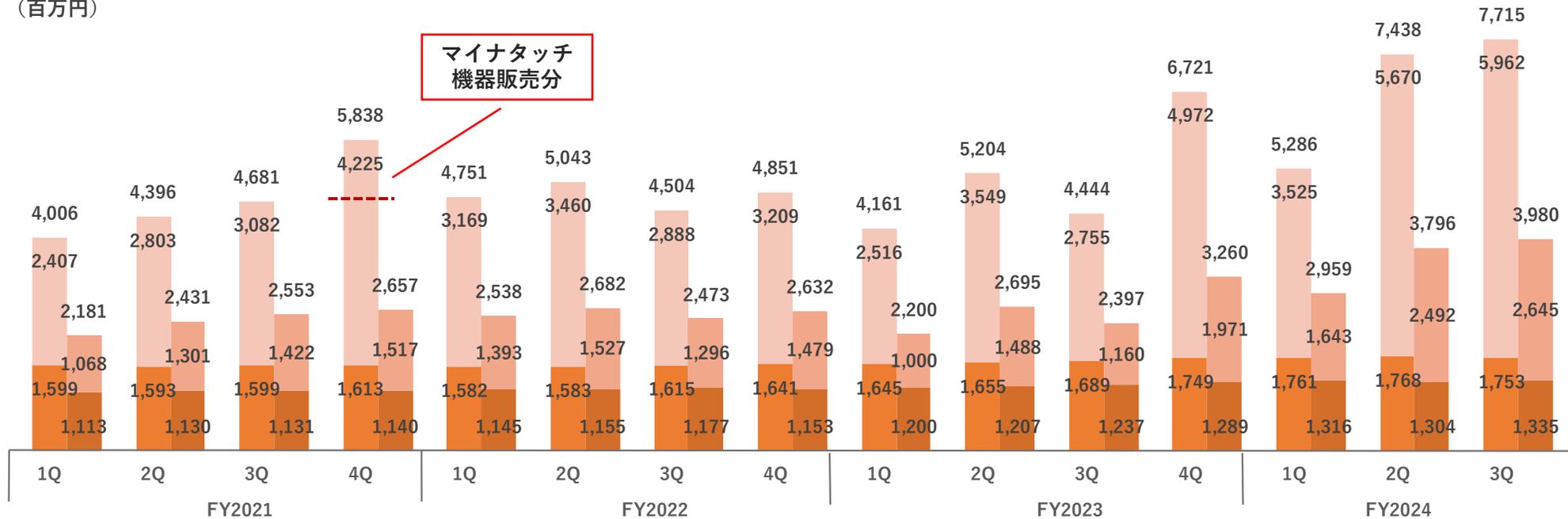
● リカーリング粗利率 ● フロー粗利率

※リカーリング：機器の保守料金やホテル管理システムの利用料等、継続的な収益
 ※フロー：自動精算機の機器販売等、ワンショット型の収益



左上：フロー売上高 右上：フロー粗利
 左下：リカーリング売上高 右下：リカーリング粗利

(百万円)



YoY
(3ヶ月)

フロー
売上高
+116%

リカーリング
売上高
+4%

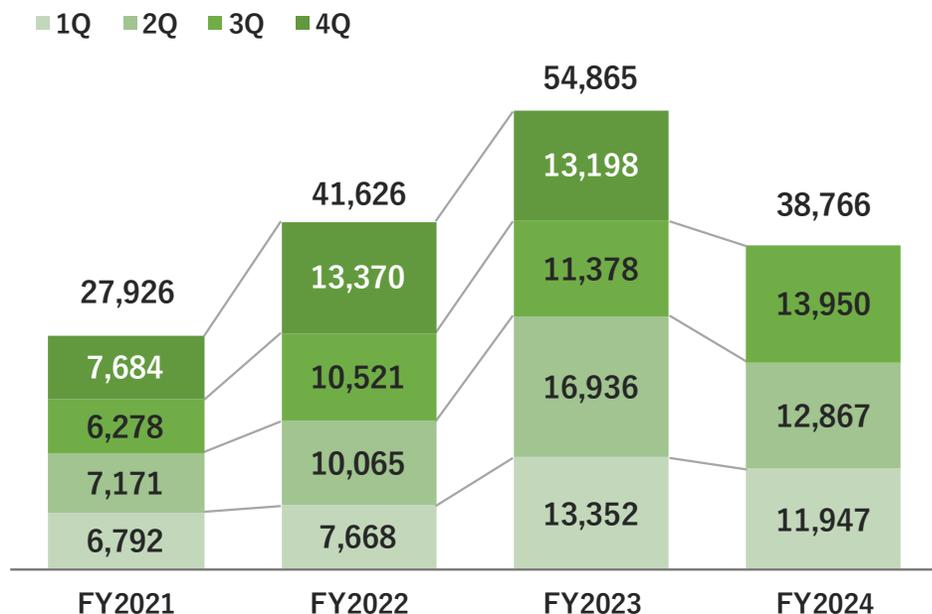
リカーリング
粗利
+8%

エネルギー事業（業績推移）

- YoYはJEPX取引価格下落により減収も、U-POWER顧客増およびUSENでんき収益性改善で大幅増益
- QoQは高単価大口を含む顧客増により増収も、容量拠出金の一部負担や顧客獲得費用増などで減益

売上高

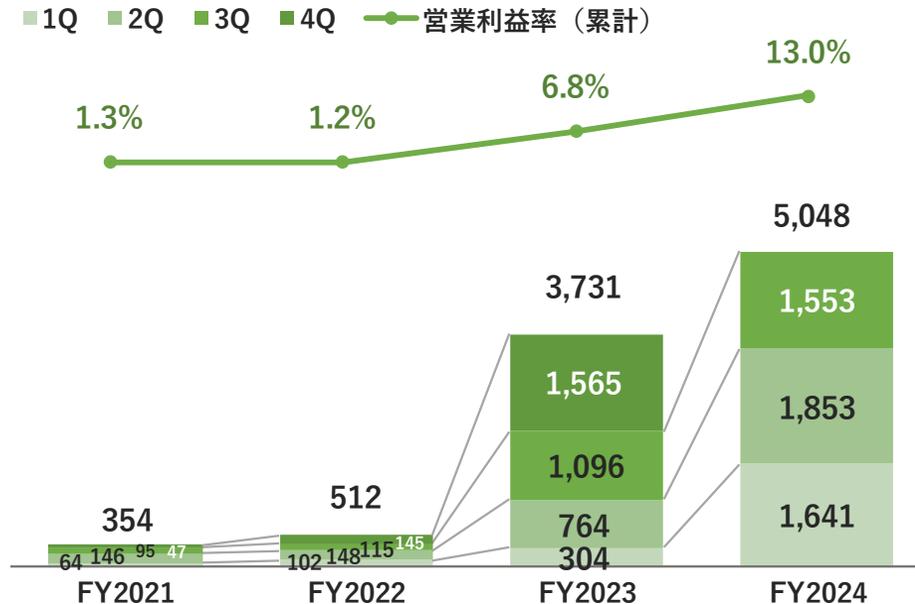
YoY ▲7% QoQ +8%



営業利益/率

YoY +133% QoQ ▲16%

(百万円)

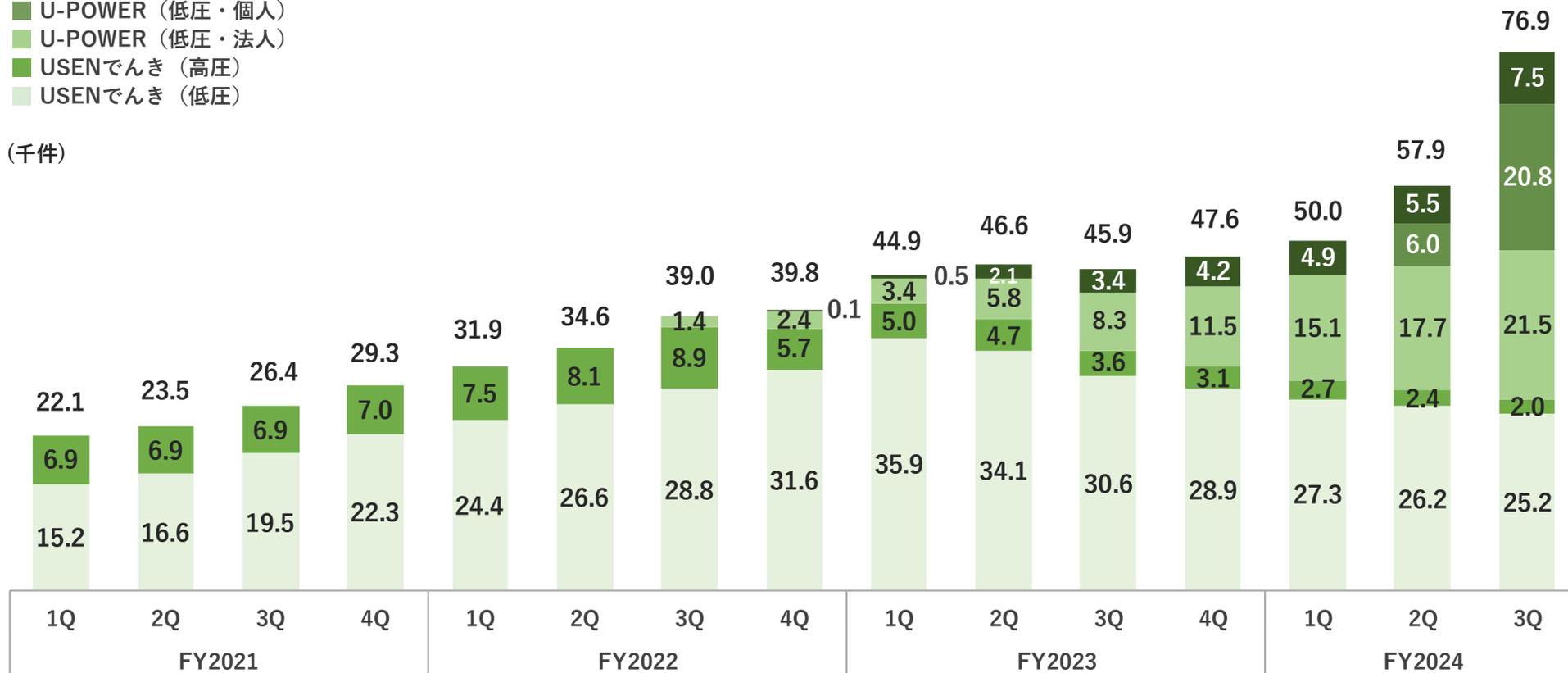


エネルギー事業（契約件数）

- U-POWER高圧において自治体など入札案件の大口受注が続き、四半期で過去最高の純増を達成
- U-POWER個人向けが引っ越しシーズンという季節性もあり予想を大幅に上回る伸長

■ U-POWER（高圧）
 ■ U-POWER（低圧・個人）
 ■ U-POWER（低圧・法人）
 ■ USENでんき（高圧）
 ■ USENでんき（低圧）

(千件)



YoY
 +31.0千件
 (+67%)

QoQ
 +19.0千件
 (+33%)

3. APPENDIX

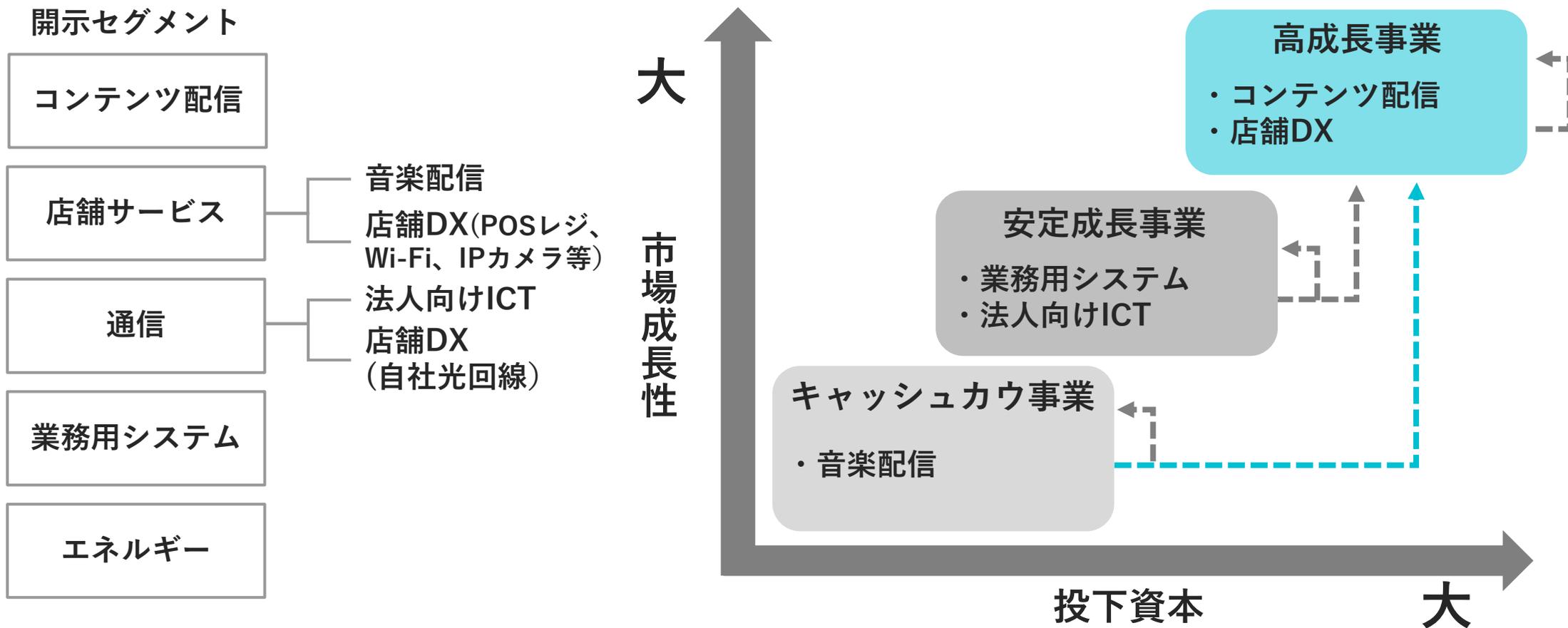
事業セグメント概要

	特徴／競争優位性	成長戦略／注力領域
コンテンツ 配信	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国内主要VODサービス「U-NEXT」を展開、日本国内のシェアは第2位※1 ✓ コンテンツ数圧倒的国内No. 1※2の見放題カバレッジ ✓ 105万冊以上の電子書籍も1つのアプリで提供 ✓ 見放題と都度課金のハイブリッド、かつ月額1,200円分のポイント提供でHigh ARPUを実現 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 圧倒的コンテンツカバレッジ：オリジナルではなくラインナップで差別化 ✓ オールインワン・エンターテインメント： ビデオ/ブック/音楽・ライブを1アプリで楽しめる唯一無二のサービスへ ✓ ONLY ON：U-NEXTでしか見られない独占配信作品を強化 ✓ これまでの映画、アニメ、ドラマに加えてスポーツ、音楽を強化
店舗 サービス	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国内シェアNo. 1の店舗向け音楽配信による安定収益 ✓ 60年超の事業展開を通じた盤石な顧客基盤 ✓ 全国を網羅したセールス1,200名とフィールドエンジニア900名の自社リソース体制で顧客関係性を維持・強化 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 通信環境をインフラとした60以上のDX/IoT商材によるアップセル（自社リソースで納品～保守まで一気通貫に対応） ✓ セット成約率が高い新規OPEN店により注力、既存店閉店→後継店OPENのサイクルで徐々にアップセルを浸透
通信	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 法人向けICT/SaaS：直販営業による担当営業制でのマルチベンダー戦略 ✓ 業務店向け自社光回線：店舗サービスのDX商材とのセット販売が可能、直販営業に加え250社の代理店網による販売促進 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 法人向けICT/SaaS：ニーズに即したラインアップ構築で安定成長を企図 ✓ 業務店向け自社光回線：契約取次から自社回線によるストック収益へ転換、顧客増加でDX/IoT商材のアップセル機会を創出
業務用 システム	<ul style="list-style-type: none"> ✓ レジャーホテル、ビジネスホテル、大規模医療機関が主力市場 ✓ 自社製造ラインを持たないファブレスで自動精算機は国内シェアNo.1 ✓ ハード、ソフト・アプリ、エンジニア保守の三位一体価値の提供 ✓ 売上総利益のフロー/ストック構成比は約55：45で安定的 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 生産年齢人口減少等による効率化ニーズを踏まえたDX化支援 ✓ 販売機器へオプション提供するソフトウェアサービスでストック収益増 ✓ 「マイナタッチ」を起点とした中小規模医療機関への事業領域拡大や観光立国を支えるインバウンド再興によるIT投資需要の回復 ✓ ペットクリニックや観光施設等、隣接周辺市場の開拓
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 東京電力グループからの相対調達モデル「USENでんき」、JEPXから市場調達したグリーンエネルギーを提供する「U-POWER」の2つを展開 ✓ 直販営業やインサイドセールス、代理店等当社グループの販売チャネルに加え、顧客基盤も有効活用が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ USENでんき：業務店顧客基盤に対してコスト削減を提案、ドアノック商材として営業提案を拡大 ✓ U-POWER：ESG意識の高まりも受けてUSENや他社との協業により顧客基盤の拡大を目指す

※1 GEM Partners 動画配信（VOD）市場5年間予測レポート ※2 2024年6月GEM Partners調べ

ポートフォリオマネジメント（再掲）

各事業が創出利益を再投資しつつ高成長事業へ積極投資、持続的な成長を実現



財務戦略（中期経営計画再掲）

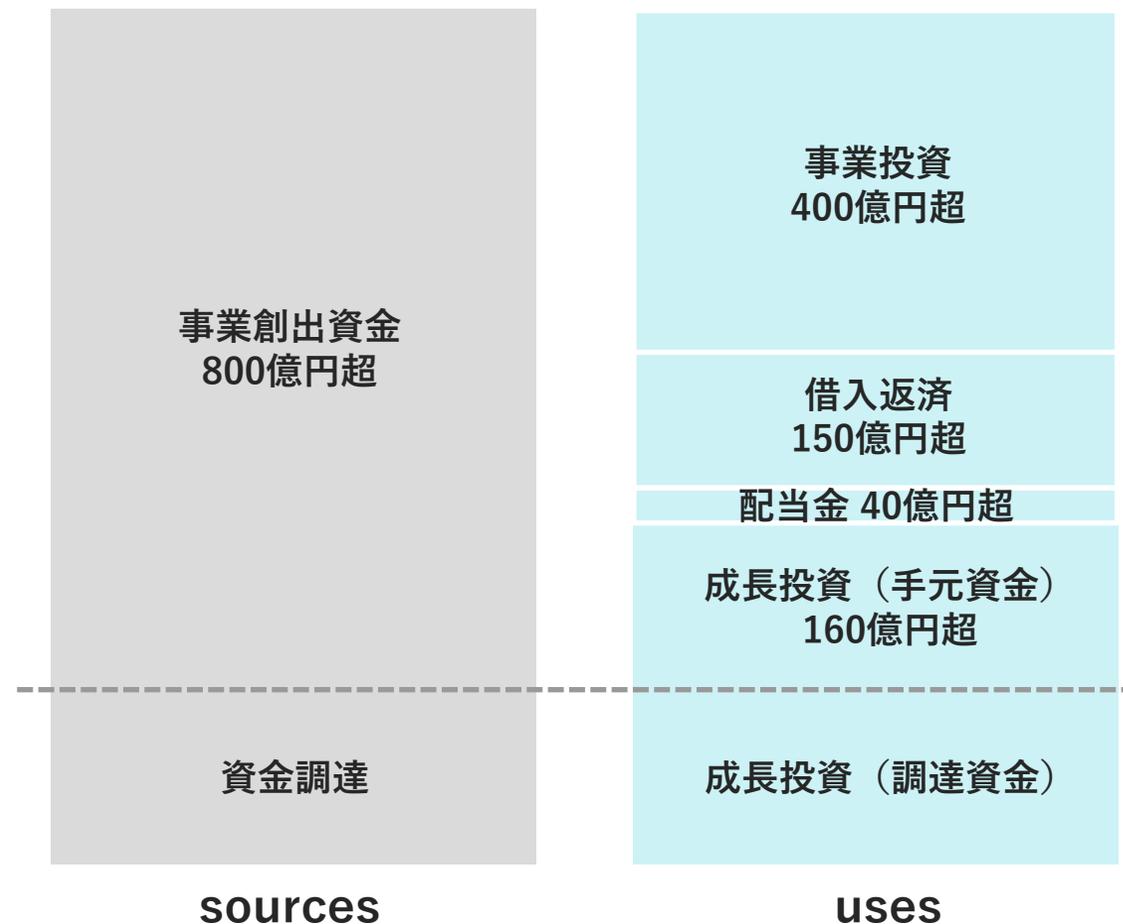
主要経営財務指標

	前中計期間（実績）		FY2025 計画
	FY2019	FY2021	
ROE	33.6%	27.2%	20%程度
自己資本比率	14.9%	23.6%	30%～40%
レバレッジ・レシオ	4.2倍	2.6倍	1.5倍未満
D/Eレシオ	3.5倍	1.9倍	1倍未満

※計画において、資金調達を伴うM&Aを実施した場合の影響は織り込まず

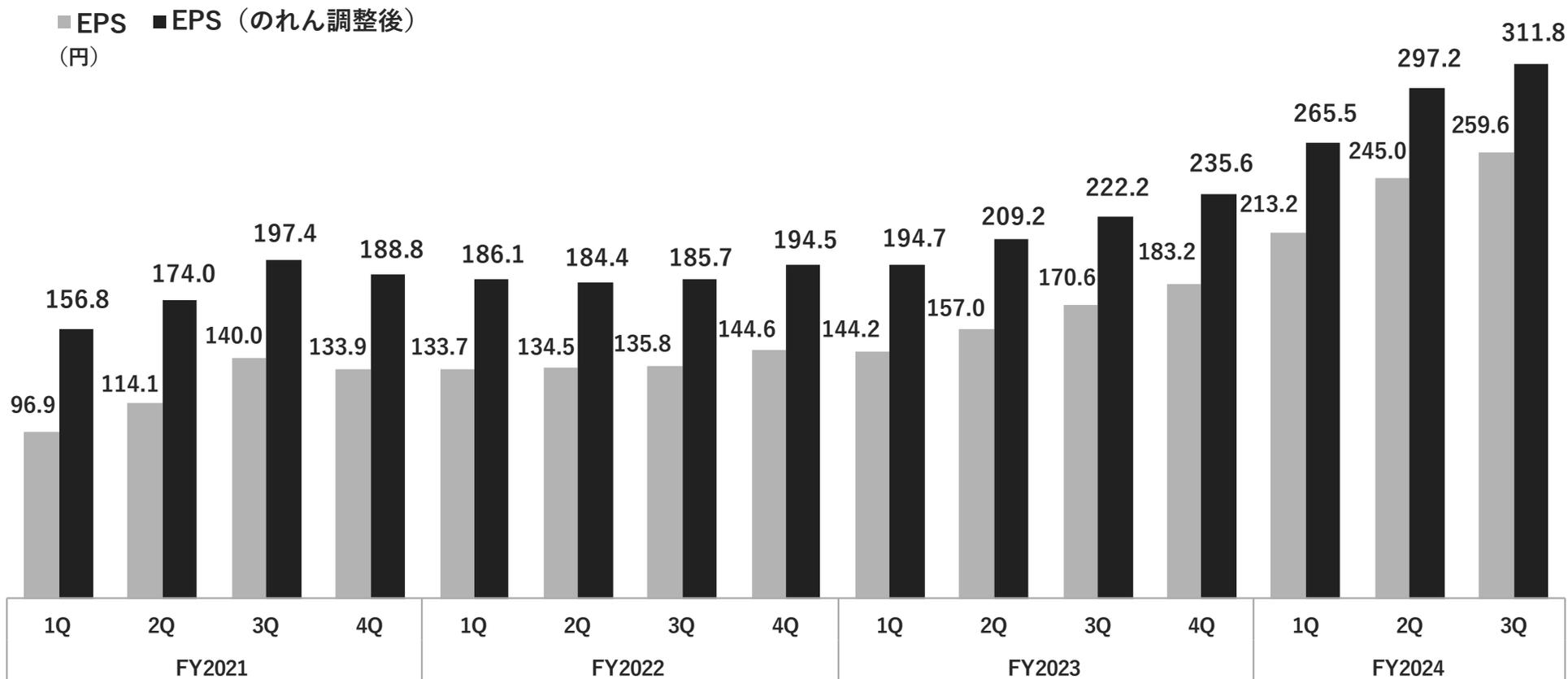
- レバレッジを活用した効率的な経営を継続
ROE 20%程度を維持、自己資本比率 30%～40%へ改善
- 機動的なM&Aを実行可能にすべく
レバレッジ・レシオやD/Eレシオを継続圧縮、
資金調達余力を確保

キャピタルアロケーション（※4ヶ年累計）



EPS推移（LTMベース）

YoYでの増益が寄与し着実に増加



調整後EPS

YoY +90円
(3ヶ月)
QoQ +15円

EPS

YoY +89円
(3ヶ月)
QoQ +15円

※LTM：Last Twelve Month（直近12ヶ月）

連結貸借対照表（前期末対比）

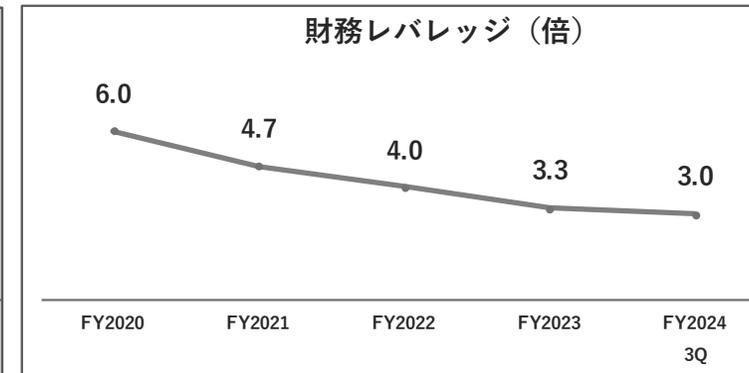
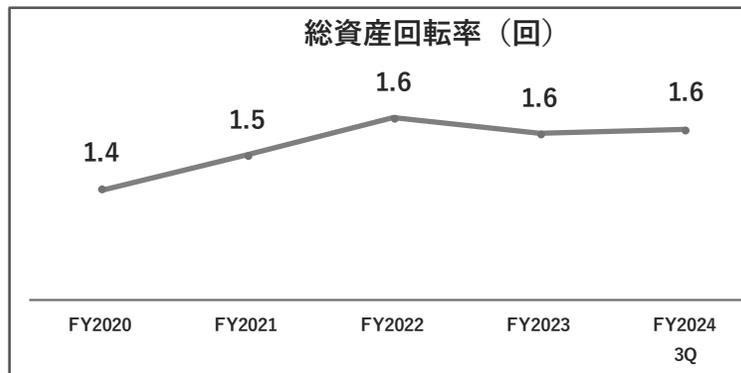
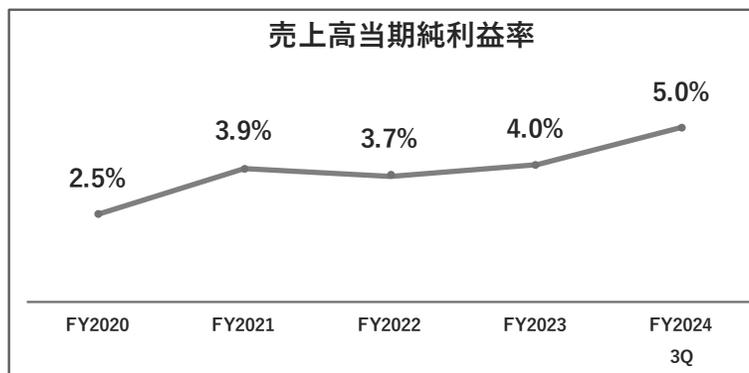
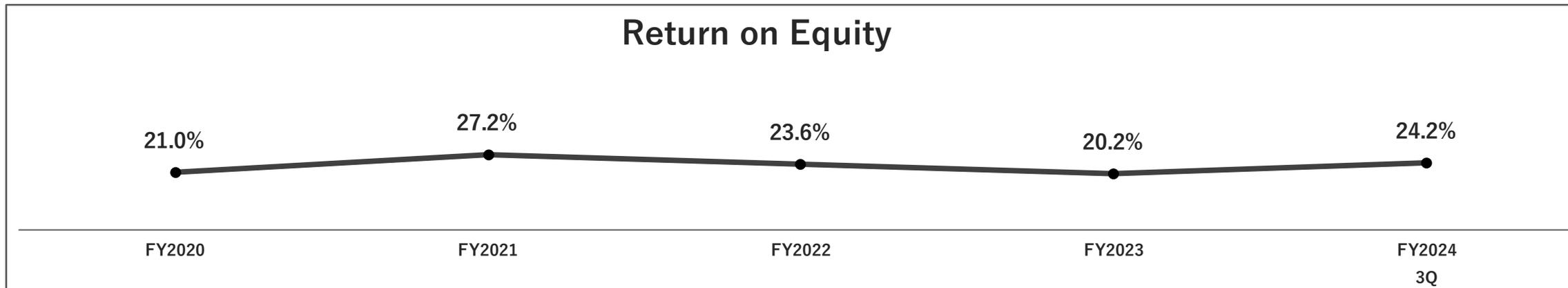
- 流動資産：前払費用の増加は主にコンテンツ調達投資
- 固定資産：有形固定資産やソフトウェアが増加も、のれん償却により全体では減少
- 負債：流動負債その他は主に未払法人税の増加
- 純資産：着実な当期純利益の計上により株主資本を積み上げ（配当支払いにより一部相殺）

（百万円）	FY2023期末	FY2024 3Q	増減
（資産の部）			
流動資産	121,225	142,054	+20,829
現金及び預金	52,132	54,754	+2,622
売掛債権	31,989	35,389	+3,400
たな卸資産	9,708	11,416	+1,708
前払費用	24,364	37,483	+13,119
その他	3,030	3,011	▲19
固定資産	79,298	78,547	▲752
有形固定資産	18,419	18,758	+339
無形固定資産	48,675	47,498	▲1,176
のれん	42,591	40,278	▲2,313
その他	6,083	7,220	+1,137
投資その他の資産	12,204	12,290	+86
資産合計	200,524	220,601	+20,078

（百万円）	FY2023期末	FY2024 3Q	増減
（負債の部）			
流動負債	55,527	66,352	+10,825
仕入債務	26,466	30,294	+3,828
短期借入金	-	-	-
1年以内返済予定の長期借入金	3,000	3,000	-
その他	26,060	33,057	+6,997
固定負債	67,289	64,558	▲2,731
社債	10,000	10,000	-
長期借入金	50,970	48,720	▲2,250
その他	6,319	5,838	▲481
負債合計	122,817	130,911	+8,094
（純資産の部）			
株主資本	68,020	79,385	+11,366
資本金	97	99	+2
資本剰余金	29,784	29,786	+2
利益剰余金	38,138	49,499	+11,362
自己株式	-0	-0	▲0
その他包括利益累計額	431	374	▲57
非支配株主持分	9,255	9,930	+675
純資産合計	77,707	89,690	+11,983
負債純資産合計	200,524	220,601	+20,078

経営財務指標（ROE ※LTMベース）

財務レバレッジ低下の一方で、収益性改善によりROEは前期末から増加



※LTM：Last Twelve Month（直近12ヶ月）

※Return on Equity（ROE）：売上高当期純利益率 × 総資産回転率 × 財務レバレッジ

※売上高当期純利益率：当期純利益 ÷ 売上高

※総資産回転率：売上高 ÷ 総資産（期中平均）

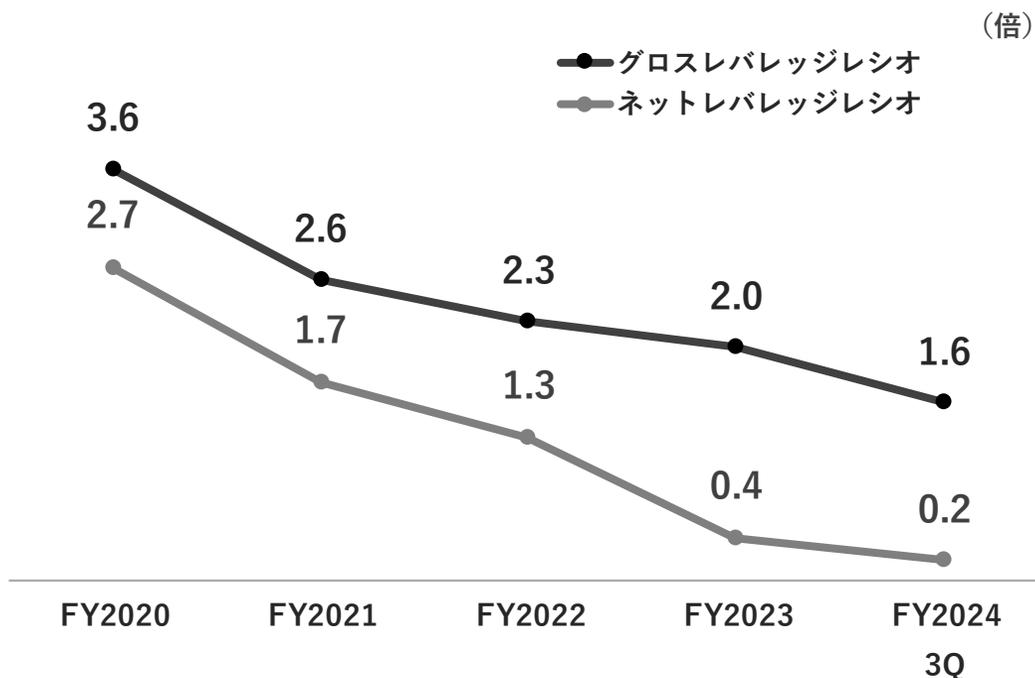
※財務レバレッジ：総資産（期中平均） ÷ 自己資本（期中平均）

※自己資本：純資産 - 新株予約権 - 少数株主持分

経営財務指標（レバレッジレシオ、D/Eレシオ）

EBITDA及び株主資本の増加でレバレッジレシオ、D/Eレシオともに減少傾向

レバレッジレシオ（LTMベース）

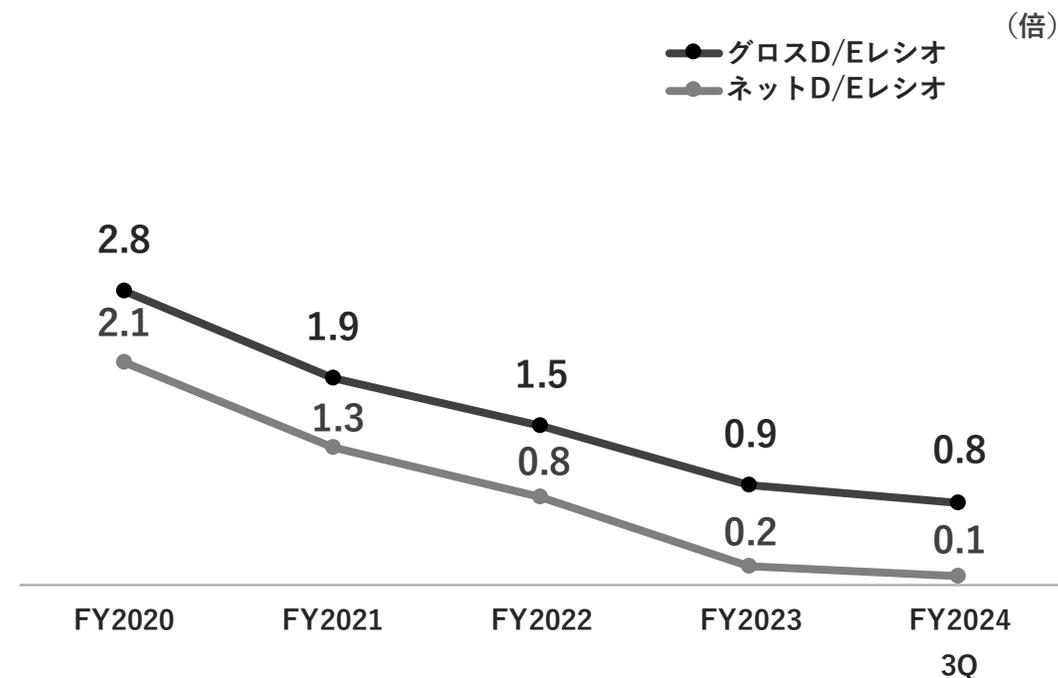


※LTM：Last Twelve Month（直近12ヶ月）

※グロスレバレッジレシオ：有利子負債 ÷ EBITDA

※ネットレバレッジレシオ：（有利子負債－現預金） ÷ EBITDA

D/Eレシオ



※グロスD/Eレシオ：有利子負債 ÷ 株主資本

※ネットD/Eレシオ：（有利子負債－現預金） ÷ 株主資本

経営財務指標（再掲）

（億円）

		FY21/08 実績	FY22/08 実績	FY23/08 実績	FY24/08 修正予想	備考
ROE	① = ② / ③	27.2%	23.6%	20.2%	19.7%	前期比ほぼ横ばい
当期純利益	- ②	80	87	110	147	
株主資本（期中平均）	- ③	293	365	540	745	FY23/08に270億円の増資実行
ROIC	④ = (⑤ × (1 - ⑥)) / (③ + ⑦)	10.4%	11.3%	11.9%	13.3%	増加基調で今期予想は13%超
営業利益	- ⑤	156	173	216	285	
実効税率	- ⑥	36%	36%	36%	36%	
株主資本（期中平均）		293	365	540	745	FY23/08に270億円の増資実行
有利子負債（期中平均）	- ⑦	671	617	617	625	FY23/08に100億円の社債発行
株主資本コスト	⑧ = ⑨ + (⑩ × ⑪)	5.3%	11.5%	9.3%	7.8%	FY22/08をピークに減少傾向
10年国債レート	- ⑨	0.0%	0.2%	0.7%	0.7%	各期末日レート（FY24/08は中間期末）
マーケットリスクプレミアム	- ⑩	5.2%	7.4%	7.0%	6.2%	各期1年間の平均値（FY24/08は中間期末LTM）
株主β	- ⑪	1.02	1.52	1.23	1.14	52週/104週/36ヶ月/60ヶ月で信頼区間95%にて算出
WACC	⑫ = ⑧ × ⑬ + ⑭ × ⑮	2.5%	5.2%	5.2%	4.8%	株主資本比率が増加基調（財務基盤良化）
株主資本コスト		5.3%	11.5%	9.3%	7.8%	
株主資本比率	- ⑬	34%	40%	52%	57%	
負債コスト	- ⑭	1.1%	1.1%	0.8%	0.8%	
負債比率	- ⑮	66%	60%	48%	43%	
エクイティスプレッド	① - ⑧	22.0%	12.1%	10.9%	11.9%	
EVAスプレッド	④ - ⑫	7.9%	6.0%	6.8%	8.5%	

将来見通しに対する注記事項

本資料に記載されている意見や予測等は、資料作成時点での当社の判断であり、リスクや不確実性を含んでいるため、その情報の正確性、完全性を保証または約束するものではありません。



JPX-NIKKEI 400



JPX-NIKKEI Mid Small